科　目　名	社会福祉概論Ⅰ		
担当教員名	片居木　英人		
ナンバリング	KDa101		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格／社会福祉士受験資格／介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

この科目は、主に社会福祉の全体（基本）を学ぶものである。社会福祉士指定科目でもある。
講義では、現代社会における福祉の理念、福祉制度、実態、福祉政策との関係という内容を順次学んでいく。学修目標は次の３点である。①福祉の原理をめぐる理念、理論、哲学について理解することができる。②福祉政策におけるニーズと資源について理解することができる。③福祉政策の課題について理解することができる。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数

1　福祉制度の概念と理念①憲法理念を中心に
2　福祉制度の概念と理念②ノーマライゼーション理念を中心に
3　福祉制度と福祉政策の関係
4　福祉政策と政治の関係
5　福祉政策の主体と対象
6　福祉の原理をめぐる理論・哲学・倫理
7　前近代社会と福祉（救貧法、慈善事業、博愛事業、相互扶助、その他）
8　近代社会と福祉（第二次大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉、その他）
9　現代社会と福祉（新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化、リスク社会、福祉多元主義、その他）
10　需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他
11　資源の定義（資源の定義、その他）
12　福祉政策と社会問題（貧困、孤独、失業、要援護〔児童・老齢・障害・寡婦〕、偏見と差別、社会的排除，ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
13　社会政策の現代的課題（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット、その他）
14　福祉政策の課題と国際比較（国際動向を含む）
15　授業のまとめ

評価

平常点３０％、筆記試験７０％とし、６０点以上を合格とする。合格に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

授業外学習

【事前準備】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所の通読
【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所の通読・点検・復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[使用テキスト]

・片居木英人『現代の社会福祉をめぐる人権と法』法律情報出版

・『福祉小六法　2016』みらい社

科　目　名	社会福祉概論Ⅱ		
担当教員名	宮内　寿彦		
ナンバリング	KDa201		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格／社会福祉士受験資格／介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

① 科目の性格

社会福祉原理・理論・対象・分野等、全般についての講義を行う。

②授業の概要

少子高齢社会における社会福祉の現状を制度的視点からと共に、専門行動的視点から歴史的変遷を含めて鳥瞰図的にとりあげる。社会福祉サービスを展開するうえで保健医療関係者及び地方行政機関との連携、協同のあり方について学び、社会福祉サービスに必要な知識・技術・態度・視点を身につけ、社会福祉サービスの本質について検討する。

③学修目標

本科目の学修目標は、（１）わが国の社会福祉制度の概要と各分野における現状の理解、（２）身近に起こっている福祉領域に関する諸問題について、学生個々が関心を持つこと、（３）個々の関心を持つ諸問題の現状と課題についての理解、を目標とする。

内容

1	社会福祉の理念と概念について　～社会的歴史的所産として捉え方を学ぶ ～
2	社会福祉の対象と主体について　～現在から過去にさかのぼってその変遷を学ぶ～
3	社会福祉のニーズ概念について　～需要と供給の関係のもとに検討してゆく～
4	社会福祉の発展 について　～英国と日本の比較をしながら学ぶ～
5	社会福祉法体系について（１）　社会保障制度と社会福祉法制度について検討する
6	社会福祉法体系について（２）　生存権を視点に社会保障制度と社会福祉法制度を検討する
7	福祉行財政の仕組み（１）
8	福祉行財政の仕組み（２）
9	中間まとめ
10	少子高齢化社会と暮らし（１）子どもの貧困の現状と対策
11	少子高齢化社会と暮らし（２）子どもの貧困の現状と対策
12	少子高齢化社会と暮らし（３）高齢者の貧困の現状と対策
13	少子高齢化社会と暮らし（４）高齢者の貧困の現状と対策
14	未来への課題　～人権保障と生活保障～
15	まとめ

評価

中間試験（持ち込み自筆ノート・配付資料のみ）及び定期試験の結果とし、総合評価60点以上を合格とする。　中間試験５０％、定期試験５０％。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わかない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：後藤　卓郎（編）『新選　社会福祉第２版』,（株）みらい2013年3月。

他オリジナル資料配付

科　目　名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ		
担当教員名	富井　友子		
ナンバリング	KDa102		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格／介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本学では、高齢者福祉を学ぶ科目として、高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ・Ⅱを設置している。そのうち高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰは、高齢者福祉を学ぶ背景（高齢者の特性、少子高齢社会に伴う諸問題、歴史的変遷等）や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等の基礎的な理解を図る科目である。

②科目の概要

高齢期と一概にいってもその時間的な幅は大きく、個々の心身機能や生活状況も様々である。平均寿命は男女とも80歳代となり、人口の4分の1が65歳以上である日本において、高齢者を取り巻く社会状況や生活支援に関する法律や制度、諸サービス等を総合的に学ぶことは重要である。本科目では、高齢者を支援が必要な人として一面的に捉えるのではなく、生活の主体者と捉え、生活支援という視点から、これらの内容を学ぶ。

③学修目標（＝到達目標）

高齢者福祉を学ぶ背景（高齢者の特性、少子高齢社会に伴う諸問題、歴史的変遷等）や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等に関し基礎的な知識を習得すること。

内容

1	オリエンテーション、高齢期の生活と高齢者を取り巻く社会情勢
2	老いの理解
3	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷①
4	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷②
5	介護保険制度①
6	介護保険制度②
7	介護保険制度③
8	介護保険制度④
9	介護保険制度⑤
10	老人福祉法①
11	老人福祉法②
12	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律
13	高齢期と住まい
14	認知症の理解
15	まとめ

評価

課題の提出（15点）、小テスト（15点×3回）、最終レポート（40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】自分の住んでいる（もしくは親族が住んでいる）自治体が発行している介護保険制度に関するパンフレットを1部もらっておくこと

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田進一・橋本正明編著『社会福祉士養成テキストブック高齢者に対する支援と介護保険制度』ミネルヴァ書房

科　目　名	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ		
担当教員名	富井　友子		
ナンバリング	KDa202		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格／介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本学では、高齢者福祉を学ぶ科目として、高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ・Ⅱを設置している。そのうち高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱは、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等を理解した上で、高齢者福祉の具体的な援助や実践活動、その基盤となる考え方について学ぶ科目である。

②科目の概要

高齢期と一概にいってもその時間的な幅の差は大きく、各々の心身機能や生活状況も様々である。平均寿命は男女とも80歳代となり、人口の4分の1が65歳以上である日本において、高齢者を取り巻く社会状況や生活支援に関する法律や制度、諸サービス、それらの歴史的変遷等を総合的に学ぶことは重要である。本科目では、高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、地域ケアにおける高齢者の生活支援に関する概念や仕組み等を学ぶ。

③学修目標（＝到達目標）

福祉専門職として高齢者の生活支援に必要となる概念や仕組みに関する知識を修得すること。

内容

1	オリエンテーション、高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰの復習
2	介護福祉に関する概念（介護、介護過程）
3	介護福祉に関する概念（介護過程）
4	介護福祉に関する概念（終末期ケア）
5	高齢期の住まい
6	ケアマネジメント①
7	ケアマネジメント②
8	ケアマネジメント③
9	ケアマネジメント④
10	地域ケアシステムと地域包括ケア①
11	地域ケアシステムと地域包括ケア②
12	地域包括ケアシステム
13	地域包括支援センターの役割と実際
14	地域包括支援センターの役割と実際
15	まとめ

評価

課題の提出（25点）、小テスト（15点×3回）、最終レポート（30点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】自分の住んでいる（もしくは親族が住んでいる）自治体の第6期介護保険事業計画（平成27年度～平成29年度）に目を通しておくこと

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】適宜プリントを配布する

【推薦書】

岡田進一・橋本正明編著『社会福祉士養成テキストブック高齢者に対する支援と介護保険制度』ミネルヴァ書房

太田貞司(2003)『地域ケアシステム』有斐閣アルマ

科　目　名	児童・家庭福祉論		
担当教員名	栗原　直樹		
ナンバリング	KDa103		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格／社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

少子・高齢化社会における児童・家庭福祉について講義、資料、及び事例等を通じて包括的に理解する。

②科目の概要

ア　現代社会における児童・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（ひとり親家庭、 児童虐待、DV、地域における子育て支援等）と実際を理解する。

イ　児童・家庭福祉制度の発展過程を理解する。

ウ　子どもの権利（子どもの最大の利益を実現する視点）を理解する。

エ　児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養　手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法、子ども・子育て支援法等のあらましを理解する。

③学修目標

出生率の変化というマクロの社会状況と児童の成長発達というミクロの状況を視野に入れて、児童に関わる課題を考えられるようになること。

内容

1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢（少子化、地域における子育て支援等）
2	児童・家庭の福祉需要
3	児童・家庭福祉制度の発展過程
4	児童の定義と権利（児童福祉法、児童の権利に関する条約等）
5	児童福祉法
6	児童虐待の防止に関する法律
7	ＤＶ法の概要及び売春防止法の概要
8	母子及び寡婦福祉法
9	母子保健法
10	児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当の支給に関する法律の概要
11	次世代育成支援対策推進法・少子化対策推進法
12	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際（国・都道府県・市町村等の役割）
13	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と地域における他職種連携と実際
14	児童相談所の役割と実際
15	まとめ

評価

前半はレポート又は筆記試験40点、後半は筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキスト各章を一読しておく。

【事後学修】重要な概念、用語を振り返る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」　ミネルヴァ書房

参考図書　　社会福祉六法

科　目　名	**障害者福祉論**		
担当教員名	太田　真智子		
ナンバリング	KDa104		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格／社会福祉士受験資格／介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に対応する科目であり、国家試験受験資格取得に必要な科目である。また介護福祉士資格取得のための指定科目である。

②科目の概要

本科目では、（1）障害のある人の生活実態とこれを取りまく社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解する。（2）障害者福祉制度の発展過程について理解する。（3）相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害のある人の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。

③学修目標

授業内容についてテキストを精読することと、索引に登場する用語について調べ理解しておくことが求められる。その上で以下の点について理解できているかを目標とする。

（1）障害のある人への福祉の歴史と理念について説明ができること

（2）障害のある人の生活実態について説明できること

（3）障害のある人への自立支援制度の概要とサービスについて説明できること

（4）障害のある人への専門職のかかわりのポイントについて説明できること

内容

1	オリエンテーション、障害者福祉の視点
2	障害者福祉の歴史（欧米編）
3	障害者福祉の歴史（日本編）
4	障害者福祉の基本理念①各権利宣言・法制度
5	障害者福祉の基本理念②障害者福祉実践の展開
6	障害者の概念と障害者の実態
7	障害者福祉の法体系
8	障害者総合支援法
9	障害者福祉サービス
10	障害者福祉サービスにおける給付の仕組み
11	障害者福祉サービスにおける課題
12	障害者の生活保障
13	障害者福祉にかかわる専門職
14	障害者福祉の今後の展望、全体の振り返り
15	まとめ

評価

試験による評価（中間試験又はレポート2回各15点　前期試験60点）

平常（授業態度等）評価10点
総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと
【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】相澤譲治他『障害者への支援と障害者自立支援制度』みらい
　推薦書・参考書等は随時紹介する

科　目　名	**医学一般**		
担当教員名	水澤　伸夫		
ナンバリング	KDa105		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格／介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護・福祉に欠かせない、正しい健康、病気、老化に関する知識を習得する。

②科目の概要

ヒトの成長や発達、正常な身体構造及び生体活動について理解する。疾病や障害の概要について理解する。さらにリハビリテーション、医療社会保障の概要について理解する。

③学修目標（＝到達目標）

介護・福祉の現場で必要な医学の知識を学び、より良い対人援助ができる。

内容

1	医学概論、基礎医学と臨床医学
2	成長・発達 身体の構造と機能
3	健康の概念、高齢社会と健康、感染症
4	疾患の概要と解剖学、生理学、病理学
5	心疾患・高血圧・糖尿病
6	内分泌・呼吸器・消化器
7	血液・膠原病・腎臓病
8	神経難病（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋委縮性側索硬化症）
9	生活習慣病・悪性新生物・脳血管疾患
10	先天性疾患（胎児・胎芽病、染色体異常、遺伝子異常）
11	感染症対策・難病対策
12	障がい・精神疾患、認知症
13	リハビリテーション
14	健康のとらえかた
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、レポート20%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】学習内容を教科書で予習

【事後学修】教科書、配布資料で内容を振り返る

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉士養成講座編集員会「人体の構造と機能及び疾患」中央法規

科　目　名	ソーシャルワーク論Ⅰ		
担当教員名	栗原　直樹		
ナンバリング	KDa101		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格／社会福祉士受験資格／介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格　ソーシャルワークの概念、ソーシャルワーカーの業務について学ぶことを目標とする。

②科目の概要　そのためにまず社会福祉士、精神保健福祉士という国家資格の役割と意義について学ぶ。さらに相談援助に係る概念及びその範囲についてその形成過程から理解し、重要な理念の１から８までを学ぶ。

③学修目標　これらのソーシャルワークの基礎知識を身につけ、実際の現場での応用などのステップへ向かえるようにすること。

内容

1	社会福祉士及び介護福祉士法の概要
2	社会福祉士の役割と意義
3	精神保健福祉士法の概要
4	精神保健福祉士の役割と意義
5	ソーシャルワークにかかわる各種の国際定義
6	ソーシャルワークの概念と範囲
7	相談援助の理念 1 人権尊重
8	相談援助の理念　2　社会正義
9	相談援助の理念　3　利用者本位
10	相談援助の理念　4　尊厳の保持
11	相談援助の理念　5　権利擁護
12	相談援助の理念　6　自立支援（地域生活支援）
13	相談援助の理念　7　社会的包摂(地域包括）
14	相談援助の理念　8　ノ-マライゼイション
15	まとめ

評価

前半はレポート又は筆記試験40点、後半は試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】専門的な用語に接するため、テキストを一読すること。

【事後学修】一つひとつの概念を振り返り、実際の事例に当てはめる習慣を身に着ける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書「相談援助の基盤と専門職」(新・社会福祉士養成講座）中央法規

科　目　名	**社会的養護論**		
担当教員名	福田　智雄		
ナンバリング	KDa110		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

　この科目は、本学科保育士資格必修科目である。保育士に必要な社会的養護に関する項目の基礎的な理解を得る内容となっている。また、社会福祉士資格を取得する際にも必要となる知識も取得できるように配慮してある。

　保育士資格取得に必要な、実習のための基礎となる知識を獲得する内容ともなっている。

②科目の概要

　家族のもとで暮らせない子どもたちの現状と今後のあり方について基礎的内容をテキストに沿って講義する。

③学修目標（＝到達目標）

　社会的養護演習と一緒に学ぶことによって、家族と一緒に暮らせない子どもたちや家族の置かれた環境を理解できる。さらに必要とする子どもや家族に接する援助者を目指すことができる。

内容

＜内容＞

1　はじめに、社会的養護とそれに関連する言葉
2　現代社会に暮らす子どもと家庭
3　子どもの権利
4　子どもの養護の歴史
5　社会的養護の体系、家庭、施設、里親
6　社会的養護の制度
7　施設養護の特質
8　施設養護の基本的原理
9　施設養護の実際：日常生活及び自立支援
10　施設養護の実際：治療的・支援的援助
11　施設養護の実際：親子・地域との関係調整
12　社会的養護とソーシャルワーク
13　児童福祉施設の運営管理
14　社会的養護のあるべき姿
15　まとめ

評価

授業への参加度（リアクションペーパー提出含む）40点、試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】関連科目（実習）について復習しておくこと。

【事後学修】関連科目との関連について、ノート等の整理をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小池由佳、山縣文治編著「社会的養護}ミネルヴァ書房

【推薦書】授業内で紹介する。

【参考図書】授業内で紹介する。

科　目　名	**地域福祉論Ⅰ**		
担当教員名	佐藤　陽		
ナンバリング	KDa208		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格／社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。１年次履修「社会福祉概論Ⅰ,Ⅱ」を踏まえて本科目を理解する必要があり、2年次前期履修「社会調査の基礎」、3年次後期履修「福祉行財政と福祉計画」、３年次後期履修「社会福祉施設経営論」、３年次後期履修「ソーシャルワーク論Ⅴ」、４年次前期履修「ソーシャルワーク論Ⅵ」とも関連性がある。

②科目の概要

地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法について理解する。

③学修目標

1.地域福祉の基本的考え方について理解する。

2.地域福祉の主体と対象について理解する。

3.地域福祉に係る行政及び民間組織、専門職の役割と実際を理解する。

4.地域福祉の推進方法について理解する。

内容

1	地域福祉を知る
2	地域福祉の実際について
3	地域福祉の概観を捉える
4	地域福祉の主体と対象
5	地域福祉における民間組織・住民の役割
6	地域福祉実践を知る
7	社会福祉協議会の組織と役割
8	地域福祉の専門職と人材
9	社会福祉協議会の仕事
10	ネットワーキングの意味と方法
11	地域福祉ネットワークの実際
12	ボランティア・市民活動の推進と福祉教育
13	福祉教育・ボランティア学習の実際
14	地域福祉の課題
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等20%、中間レポート30%、筆記試験40%とし、６０点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】第1回までに序章、第1章を通読しておく。授業時に予習すべき章を事前に伝えるが、主体的に、第４,６,７,８,９,１４,終章を読んでおくことが望ましい。
【事後学修】授業については復習することを必須とし、授業時に紹介された図書、ホームページ、法律や政策、国家試験問題等について各自で内容を確認し、更に理解を深められるよう努力する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】新社会福祉士養成課程対応　第２版　地域福祉の理論と方法　株式会社みらい

科　目　名	ソーシャルワーク論Ⅱ		
担当教員名	栗原　直樹		
ナンバリング	KDb212		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格／社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

　相談援助の専門職としての基礎知識をテキストや事例によって学ぶ。

②科目の概要

総合的かつ包括的相談援助の動向と専門職的機能の展開を理解することを目標とする。

そのために重要な役割としての権利擁護をはじめ、相談援助にかかわる専門職の概念と範囲及び専門　職業倫理について理解する。また、諸外国の動向、及び現場で生じるジレンマの実際を学ぶ。

③学修目標

　ジェネラリスト視点に立つこと、及び他職種連携の意義を学ぶことからソーシャルワーカーとしての素地を作り上げる。

内容

1	相談援助における権利擁護の意義
2	相談援助専門職の概念と範囲
3	福祉行政等における専門職
4	民間の施設・組織における専門職
5	諸外国の動向：イギリス
6	諸外国の動向：ドイツ、アメリカ
7	専門職倫理の概念
8	専門職倫理
9	倫理的ジレンマ
10	倫理的ジレンマの実際
11	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な相談援助の意義と内容
12	ソーシャルワークにおける総合的・包括的な援助の実際
13	ジェネラリストの視点に基づく地域における他職種連携（チームアプローチ）の意義と内容
14	総合的かつ包括的な相助と地域における他職種連携の意義と内容
15	まとめ

評価

前半はレポート又は筆記試験40点、後半は筆記試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】ソーシャルワーク論Ⅰ（テキスト前半の内容）の再読のうえ各章を事前に読む必要がある。

【事後学修】テキストの太字の用語、概念について振り返ること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書「相談援助の基盤と専門職」(新・社会福祉士養成講座）中央法規

科　目　名	**ソーシャルワーク論Ⅲ**		
担当教員名	大山　博幸		
ナンバリング	KDb213		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格／社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①ソーシャルワークの理論と方法について学習する。社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもある。②相談援助における専門的援助関係の特性について理解する。相談援助の過程について理解する。③ソーシャルワークの定義について理解し、その概要を説明できるようになる。相談援助における専門的援助関係の特性とその重要性について理解し説明できる。相談援助の過程を理解し、その概要を説明できるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	ソーシャルワークの定義
3	専門的援助関係について：ラポール形成
4	専門的援助関係について：自己覚知
5	専門的援助関係について：利用者理解
6	援助の基本姿勢：バイスティックの7原則
7	相談面接技術１
8	相談面接技術２
9	相談援助の過程：インテーク、アウトリーチ
10	相談援助の過程：アセスメント
11	相談援助の過程：プランニング、モニタリング
12	相談援助の過程：評価、終結
13	相談援助の過程：効果測定
14	ケアマネジメントの定義とその過程
15	まとめ

評価

中間テスト30点、授業中のミニワーク40点、最終テスト30点の計100点より評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習ⅠⅡの内容を振り返り、自己覚知の定義について確認すること。

【事後学修】相談援助過程及び国内介護保険制度上のケアマネジメント過程について復讐すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ』（株）みらい　2010

その他授業中に指示。

科　目　名	**就労支援サービス論**		
担当教員名	太田　真智子		
ナンバリング	KDb215		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「就労支援サービス」に対応する科目であり、国家試験受験資格取得に必要な科目である。

②科目の概要

本科目では、次の内容について主にテキストと関係法令をもとに講義によって学習する。

（1）相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解する。

（2）就労支援にかかわる組織、団体及び専門職について理解する。

（3）就労支援分野と関連分野との連携について理解する。

③学修目標

授業内容についてテキストを精読することと、索引に登場する用語について調べ理解しておくことが求められる。その上で以下の点について理解できているかを目標とする。

（1）労働関連法令と近年の労働市場の変化について説明ができること

（2）障害のある人への就労支援サービスの概要について説明できること

（3）低所得者への就労支援サービスの概要について説明できること

内容

1	オリエンテーション、「働くこと」の意味
2	労働市場の変化
3	労働に関する法律
4	労働に関する公的保険制度
5	障害者の就労の現状
6	障害者福祉施策における就労支援
7	障害者の就労における専門職の役割
8	障害者の就労における民間の取り組み
9	低所得者の就労の現状
10	低所得者の就労支援
11	低所得者の就労支援制度
12	低所得者の就労のための組織・団体・専門職の役割
13	就労支援の流れと職業リハビリテーション
14	就労支援サービスの今後の展望、全体の振り返り
15	まとめ

評価

試験による評価（中間試験15点前期試験60点）

レポート（15点）

平常（授業態度等）評価10点　とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと

【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会『就労支援サービス』中央法規

推薦書や参考所については随時紹介する。

科　目　名	**地域福祉論Ⅱ**		
担当教員名	佐藤　陽		
ナンバリング	KDb316		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格／社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。１年次履修「社会福祉概論Ⅰ,Ⅱ」を踏まえて本科目を理解する必要があり、2年次前期履修「社会調査の基礎」、3年次後期履修「福祉行財政と福祉計画」、３年次後期履修「社会福祉施設経営論」、３年次後期履修「ソーシャルワーク論Ⅴ」、４年次前期履修「ソーシャルワーク論Ⅵ」とも関連性がある。

②科目の概要

地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法について理解する。

③学修目標(=到達目標)

1.地域福祉の基本的考え方について理解する。

2.地域福祉の主体と対象について理解する。

3.地域福祉に係る行政及び民間組織、専門職の役割と実際を理解する。

4.地域福祉の推進方法について理解する。

内容

1	地域で安心して暮らし続けるために-地域福祉論Ⅰのふりかえり-
2	共同募金活動の実際について
3	地域福祉の理論
4	イギリス・アメリカにおける地域福祉の発展過程
5	日本における地域福祉の発達過程
6	地域福祉における行政の役割と公民協働
7	地域福祉における社会資源の意味
8	地域福祉における社会資源活用の実際
9	社会布資源の活用・調整・開発
10	地域における福祉ニーズの把握方法と実際
11	地域福祉における評価の方法と実際
12	地域福祉を踏まえた地域包括ケアシステム
13	地域包括ケアシステムの構築と実際
14	地域福祉計画策定プロセスと実際
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等20%、中間レポート30%、筆記試験40%とし、総合評価６０点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】地域福祉論Ｉの学修内容を復習し振り返っておくこと。授業時に事前に予習すべき章を伝えるが、主体的に第１，２，３，５，１０，１１，１２，１３，１５章を読むことが望ましい。
【事後学修】授業で紹介された図書、ホームページ、法律や政策、国家試験問題等について各自で内容を確認し、更なる理解を深められるよう努力する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】新社会福祉士養成課程対応　第２版　地域福祉の理論と方法　株式会社みらい

科　目　名	社会調査の基礎		
担当教員名	宮城　道子		
ナンバリング	KDb217		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①社会福祉士指定科目

②社会調査の基本的知識を講義し、身近な調査・統計データの分析やアンケート調査票の作成などを通して、実践的に学ぶ。

③学修目標は以下のとおり。

1）社会調査の意義と目的および方法の概要を理解し、社会福祉援助技術における位置づけを理解する。

2）統計法の概要、社会調査における倫理・個人情報保護について理解する。

3）量的調査の方法および質的調査の方法について理解する。

内容

1	社会調査の意義と目的および対象、社会福祉援助技術としての留意点
2	統計法の概要および各種統計の利用方法
3	課題①：統計データの活用と分析
4	社会調査における倫理および個人情報保護
5	量的調査の分類－全数調査と標本調査（含サンプリング）、横断調査と縦断調査等
6	量的調査の方法－自計式調査と他計式調査、測定の水準、信頼と妥当性等
7	量的調査における質問紙の作成方法と留意点、配布と回収方法
8	量的調査におけるデータの集計と分析
9	課題②：質問紙の作成と集計・分析例の検討
10	質的調査の方法－観察法・面接法
11	質的調査における記録と留意点
12	質的調査によるデータの整理と分析
13	質的調査の分析例の検討
14	社会調査におけるＩＴの活用方法
15	まとめ・レポート発表および講評

評価

授業中の課題・発表2割、最終レポート4割とし、テスト4割とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】推薦書および初回授業に参考文献を紹介するので、社会調査の具体例を調べておく。課題およびレポートは提出するだけでなく、授業中に発表するので、その準備を行う。

【事後学修】講義ノートの整理を各自で行う。社会福祉士国家試験についての説明も行うので、受験を希望する学生は、国試対策に向けた学修を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：森岡清志編著「ガイドブック社会調査」第2版、日本評論社、2007

根本博司他編著「初めて学ぶ人のための社会福祉調査」中央法規

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座5社会調査の基礎」中央法規

科　目　名	社会理論と社会システム		
担当教員名	宮城　道子		
ナンバリング	KDb219		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

学科専門科目のうちの選択科目。社会福祉士指定科目（社会福祉士受験資格取得のためには必修）

②科目の概要

社会学の基礎を学ぶ科目であり、システムについての基礎的考え方および集団、地域、家族などの社会学における概念の理解をめざす。その上で、社会福祉士に必要な専門性の裏付けととなる学問的体系を学ぶ。

③学修目標（＝到達目標）

・社会学における概念・理論・研究者の関係を歴史的に理解する

・社会学的な思考方法・アプローチを理解する。

・福祉専門職としての見識の基盤となる知識を身につける。

内容

1	社会学の目的・対象・方法・体系と社会システムの概念
2	法および経済と社会システム
3	社会変動の概念と近代化・産業化・情報化
4	人口の概念と人口構造・人口問題・少子高齢化
5	地域の概念と都市化・過疎化および地域集団・組織
6	社会集団の概念と組織ー官僚制・市場主義・非営利革命
7	家族と世帯の概念
8	生活のとらえ方ーライフステージ・生活時間・生活様式・ライフスタイル・生活の質
9	社会関係と社会的孤立
10	社会的行為
11	社会的役割ージェンダー
12	社会的ジレンマ
13	社会問題のとらえ方ー社会病理・逸脱
14	現代の社会問題ー差別・貧困・失業・自殺・犯罪・ハラスメント等
15	最終レポート講評とまとめ

評価

試験（50点）、レポート（50点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書を事前に読んでおくこと。
【事後学修】講義の記録をノートにまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回授業時に示す
【推薦書】講義の内容にあわせて紹介する
【参考図書】講義の内容にあわせて紹介する

科　目　名	相談援助演習Ⅰ		
担当教員名	富井　友子		
ナンバリング	KDb025		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習Ⅰ～Ⅴを設置している。そのうち相談援助演習ⅠおよびⅡは対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

②科目の概要

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

③学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

内容

第1回　オリエンテーション
第2～6回　自己理解・自己覚知・多面的理解
第7～11回　援助関係とコミュニケーション
第12～14回　相談援助の価値・倫理
第15回　まとめ

評価

ワークシート・リアクションペーパーの提出（65点）、授業での参加姿勢（15点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論Ⅰで学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと
【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

科　目　名	相談援助演習Ⅰ		
担当教員名	富井　友子		
ナンバリング	KDb025		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習Ⅰ～Ⅴを設置している。そのうち相談援助演習ⅠおよびⅡは対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

②科目の概要

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

③学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

内容

第1回　オリエンテーション
第2～6回　自己理解・自己覚知・多面的理解
第7～11回　援助関係とコミュニケーション
第12～14回　相談援助の価値・倫理
第15回　まとめ

評価

ワークシート・リアクションペーパーの提出（65点）、授業での参加姿勢（15点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論Ⅰで学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと
【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

科　目　名	相談援助演習Ⅰ		
担当教員名	富井　友子		
ナンバリング	KDb025		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Cクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習Ⅰ～Ⅴを設置している。そのうち相談援助演習ⅠおよびⅡは対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

②科目の概要

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

③学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

内容

第1回　オリエンテーション
第2～6回　自己理解・自己覚知・多面的理解
第7～11回　援助関係とコミュニケーション
第12～14回　相談援助の価値・倫理
第15回　まとめ

評価

ワークシート・リアクションペーパーの提出（65点）、授業での参加姿勢（15点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論Ⅰで学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと
【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

科　目　名	相談援助演習Ⅰ		
担当教員名	荻野　起与子		
ナンバリング	KDb025		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Dクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習Ⅰ～Ⅴを設置している。そのうち相談援助演習ⅠおよびⅡは対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

②科目の概要

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

③学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

内容

第1回　オリエンテーション
第2～6回　自己理解・自己覚知・多面的理解
第7～11回　援助関係とコミュニケーション
第12～14回　相談援助の価値・倫理
第15回　まとめ

評価

ワークシート・リアクションペーパーの提出（65点）、授業での参加姿勢（15点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論Ⅰで学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと
【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

科　目　名	相談援助演習Ⅰ		
担当教員名	荻野　起与子		
ナンバリング	KDb025		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Eクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習Ⅰ～Ⅴを設置している。そのうち相談援助演習ⅠおよびⅡは対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

②科目の概要

ソーシャルワークやケアワーク、ケアマネジメントをはじめとする、社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

③学修目標（＝到達目標）

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

内容

第1回　オリエンテーション
第2～6回　自己理解・自己覚知・多面的理解
第7～11回　援助関係とコミュニケーション
第12～14回　相談援助の価値・倫理
第15回　まとめ

評価

ワークシート・リアクションペーパーの提出（65点）、授業での参加姿勢（15点）、最終レポート（20点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論Ⅰで学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要等）について復習しておくこと
【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

科　目　名	相談援助演習Ⅱ		
担当教員名	大山　博幸		
ナンバリング	KDb125		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Aクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

②対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

③対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（与えること受け取ること）
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（ブラインド・ウォーク）
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：グループごとに実施
11	模擬面接：グループごとに実施
12	模擬面接：グループごとに実施
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	まとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習Ⅰで学習した自己覚知概念について理解、確認しておくこと。

【事後学修】ボランティア体験や実習の際、傾聴の基本技法を意識して用いていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社
伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房
アレン・Ｅ・アイビイ『マイクロカウンセリング』川島書店
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座７　相談援助の理論と方法Ｉ』中央法規

科　目　名	相談援助演習Ⅱ		
担当教員名	大山　博幸		
ナンバリング	KDb125		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Bクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

②対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

③対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（与えること受け取ること）
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（ブラインド・ウォーク）
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：グループごとに実施
11	模擬面接：グループごとに実施
12	模擬面接：グループごとに実施
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	まとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習Ⅰで学習した自己覚知概念について理解、確認しておくこと。

【事後学修】ボランティア体験や実習の際、傾聴の基本技法を意識して用いていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社
伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房
アレン・Ｅ・アイビイ『マイクロカウンセリング』川島書店
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座７　相談援助の理論と方法Ｉ』中央法規

科　目　名	相談援助演習Ⅱ		
担当教員名	大山　博幸		
ナンバリング	KDb125		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Cクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

②対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

③対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（与えること受け取ること）
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（ブラインド・ウォーク）
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：グループごとに実施
11	模擬面接：グループごとに実施
12	模擬面接：グループごとに実施
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	まとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習Ⅰで学習した自己覚知概念について理解、確認しておくこと。

【事後学修】ボランティア体験や実習の際、傾聴の基本技法を意識して用いていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社
伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房
アレン・Ｅ・アイビイ『マイクロカウンセリング』川島書店
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座７　相談援助の理論と方法Ｉ』中央法規

科　目　名	相談援助演習Ⅱ		
担当教員名	荻野　起与子		
ナンバリング	KDb125		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Dクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

②対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

③対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（与えること受け取ること）
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（ブラインド・ウォーク）
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：グループごとに実施
11	模擬面接：グループごとに実施
12	模擬面接：グループごとに実施
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	まとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習Ⅰで学習した自己覚知概念について理解、確認しておくこと。

【事後学修】ボランティア体験や実習の際、傾聴の基本技法を意識して用いていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社
伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房
アレン・Ｅ・アイビイ『マイクロカウンセリング』川島書店
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座７　相談援助の理論と方法Ｉ』中央法規

科　目　名	相談援助演習Ⅱ		
担当教員名	荻野　起与子		
ナンバリング	KDb125		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	1Eクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

②対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

③対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（与えること受け取ること）
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（ブラインド・ウォーク）
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：グループごとに実施
11	模擬面接：グループごとに実施
12	模擬面接：グループごとに実施
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	まとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助演習Ⅰで学習した自己覚知概念について理解、確認しておくこと。

【事後学修】ボランティア体験や実習の際、傾聴の基本技法を意識して用いていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社
伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房
アレン・Ｅ・アイビイ『マイクロカウンセリング』川島書店
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座７　相談援助の理論と方法Ｉ』中央法規

科　目　名	**相談援助演習Ⅲ**		
担当教員名	太田　真智子、宮城　道子、大山　博幸、佐藤　陽 他		
ナンバリング	KDb225		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

【性格】相談援助実習指導Ⅱと連動し、社会福祉士に求められる知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

【概要】具体的な事例を取り上げ、実習の準備として実際の事例について学ぶ。事例をイメージし理解することから始め、支援のあり方について学び、最終的にアセスメントや支援計画作成について学ぶ。

【学修目標】

・ケースワークを理解する

・相談援助過程を具体的に理解し述べることができる

・アセスメントシート、個別支援計画を作成できる

・社会福祉士という専門職の習得すべき重要用語について説明することができる

内容

1　オリエンテーション

2　外部講師に来ていただき（卒業生等）実習施設について学ぶ

3　同　上

4　実習記録についてDVD等を視聴し、記録を書く

5　同　上

6　具体的な事例を学ぶ

7　同　上

8　同　上

9　アセスメント(ICF)について学ぶ

10　同　上

11　同　上

12　ロールプレイを通して事例を理解する

13　同　上

14　同　上

15　まとめ

評価

①毎回シート提出・発表30%

②授業態度等10%

③「まとめのレポート」内容・発表等について60%

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に資料に目を通しておくこと　必要な場合は発表の準備をしておくこと
【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

科　目　名	基礎介護論Ⅰ		
担当教員名	宮内　寿彦		
ナンバリング	KDc126		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。

②授業の概要

１．介護福祉士を取り巻く状況（介護の変遷・少子高齢社会・家族機能の変化、介護の社会化、介護ニーズの変化）や２．介護問題理解、３．介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて学習する。

③学修目標

介護福祉士の基盤となる、介護の基礎知識の習得と「尊厳」と「自立」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

内容

1	前期オリエンテーション　内　容：求められる介護福祉士とは何か
2	介護福祉士を取り巻く状況①　内　容：介護の歴史的変遷　～相互扶助と慈善救済活動～
3	介護福祉士を取り巻く状況②　内　容：介護の歴史的変遷　～養老律令と介護行為～
4	介護福祉士を取り巻く状況③　内　容：介護の歴史的変遷　～恤救規則から生活保護制度～
5	介護福祉士を取り巻く状況④　内　容：介護の歴史的変遷　～老人福祉法から介護保険制度～
6	介護福祉士を取り巻く状況⑤　内　容：高度経済成長と家族機能の変化
7	介護福祉士を取り巻く状況⑥　内　容：核家族と介護の社会化
8	介護福祉士を取り巻く状況⑦　内　容：老老介護と高齢者虐待
9	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ①　内　容：福祉専門職種資格の変遷
10	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ②　内　容：介護福祉士の定義と義務規定
11	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ③　内　容：名称独占と業務独占
12	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ④　内　容：介護福祉士養成の現状と課題
13	専門職団体の活動①　内　容：介護福祉士会の現状と課題
14	専門職団体の活動②　内　容：日本介護福祉士会生涯学習制度
15	まとめ

評価

１．レポート２０％、２．筆記試験８０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：西村　洋子（編集）『最新 介護福祉全書 3　介護の基本』メジカルフレンド社,平成25年。

他オリジナル資料配付。

科　目　名	基礎介護論Ⅱ		
担当教員名	宮内　寿彦		
ナンバリング	KDc226		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。

②授業の概要

１．「尊厳を支える介護」、２．「自立に向けた介護」３．「介護を必要とする人の理解」４．「介護従事者の倫理（職業倫理、利用者の人権と介護、プライバシーの保護」、について学習する。

③学修目標

介護福祉士の基盤となる、介護の基礎知識の習得と「尊厳」・「自立」・「倫理」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

内容

1	尊厳を支える介護①　内　容：QOLと介護のあり方
2	尊厳を支える介護②　内　容：A.マズローの欲求階層理論と尊厳を支える介護
3	尊厳を支える介護③　内　容：ノーマライーゼーションと尊厳を支える介護
4	尊厳を支える介護④　内　容：ノーマライーゼーションからエンパワメント
5	尊厳を支える介護⑤　内　容：憲法２５条生存権と尊厳を支える介護
6	尊厳を支える介護⑥　内　容：憲法１３条幸福追求権と尊厳を支える介護
7	尊厳を支える介護⑦　内　容：生活保護と尊厳を支える介護
8	介護を必要とする人の理解①　内　容：人間の多様性・複雑性の理解～生活史、価値観～
9	介護を必要とする人の理解②　　内　容：人間の多様性・複雑性の理解～生活習慣、文化等～
10	介護サービスの現状①　　内　容：介護保険制度の概要～保険者と被保険者～
11	介護サービスの現状②　　内　容：介護保険制度の概要～介護保険施設の種類とサービス～
12	介護実践における連携 内　容：～他職種連携の意義と目的～
13	介護従事者の倫理①　内　容：介護従事者の職業倫理
14	介護従事者の倫理② 内　容：介護実践の場で求められる倫理
15	まとめ

評価

１．レポート２０％、２．筆記試験８０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：西村　洋子（編集）『最新 介護福祉全書 3　介護の基本』メジカルフレンド社,平成25年。

他オリジナル資料配付

科　目　名	介護と倫理		
担当教員名	宮内　寿彦		
ナンバリング	KDc227		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。

②授業の概要

１．倫理学をベースとし、社会福祉哲学・思想・倫理観について学習する。

③学修目標

介護福祉士の基盤となる、「倫理」「規範」「尊厳」「自立」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

内容

1	前期オリエンテーション　求められる介護福祉士とは何か
2	介護と倫理①倫理とは何か
3	介護と倫理②倫理とは何か
4	介護と倫理③社会福祉哲学からのアプローチ
5	介護と倫理④社会福祉哲学からのアプローチ
6	介護と倫理⑤思想からのアプローチ
7	介護と倫理⑥思想からのアプローチ
8	介護と倫理⑦介護福祉士法による倫理綱領
9	介護と倫理⑧他専門職団体による倫理綱領
10	介護と倫理⑨高齢者虐待防止法
11	介護と倫理⑩事例検討～抑制について～
12	介護と倫理⑪事例検討～虐待行為～
13	介護と倫理⑫事例検討～虐待行為～
14	介護と倫理⑬求められる介護福祉士像
15	まとめ

評価

１．レポート２０％、２．筆記試験８０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

藤谷　秀・横山　貴美子『介護福祉のための倫理学（介護福祉士のための教養学　4）』
弘文堂
他オリジナル資料配付。

科　目　名	介護と自立		
担当教員名	久保田　直子		
ナンバリング	KDc228		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

この科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける介護の基本に関する科目のひとつです。「その人らしい自立」「自立に向けた介護」について様々な視点から学びます。

②科目の概要

はじめに、様々な「自立」の概念を学びます。各年齢に応じた自立、心身の障がいを持ちながらの自立、他者との関係の中での自立、など概念としての「自立」について考えていきます。

次に、動作の自立について学びます。身体を動かして自ら感じ取ることや他者の動きを観察することを通してその人の潜在能力を引き出す介護方法を学びます。また、その人に適した車椅子・装具・自助具等の道具の利用方法について学びます。

さらに、実際の介護場面での「自立に向けた介護」がイメージできることを目指して、医療・保健・福祉現場での実践事例の紹介、自立を支える様々な専門職からのレクチャーなどを予定しています。

③学修目標

１．その人らしい自立とは何かを理解する。

２．動作の自立をみすえた介護方法を理解し、簡単な実践ができる。

３．自立した生活を支えるために多職種の連携が必要であることについて理解し、イメージができる。

内容

1	自立とは
2	その人らしい自立
3	ＩＣＦの理解（１）総合的な視点としてのＩＣＦ
4	ＩＣＦの理解（２）隠れたプラスの側面を引き出すＩＣＦ
5	自立に向けた介護（１）立位保持、立位での動作
6	自立に向けた介護（２）歩行の観察
7	自立に向けた介護（３）車いすの理解
8	自立に向けた介護（４）座位姿勢保持の工夫
9	自立を支える専門職（１）
10	自立を支える専門職（２）
11	自立を支える専門職（３）
12	医療・保健・福祉現場での実践事例（１）
13	医療・保健・福祉現場での実践事例（２）
14	医療・保健・福祉現場での実践事例（３）
15	まとめ

評価

授業への参加度(30%)、毎回のレポート（30%）、口頭発表（20%）、筆記試験（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は「再試験」を行ないます。

授業外学習

【事前予習】事前配布資料を読み、概要を理解する。
【事後学修】特に復習が必要な項目については授業内にて示す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。必要に応じ随時プリントを配布する。
【推薦書】野尻晋一著『リハビリ介護入門-自立に向けた介護技術と環境整備』中央法規

科　目　名	**コミュニケーション技術Ⅰ**		
担当教員名	宮内　寿彦		
ナンバリング	KDc131		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

① 科目の性格

介護福祉士に必要なコミュニケーション理論・技術についての演習を行う。

②授業の概要

コミュニケーション技術Ⅰでは介護におけるコミュニケーションの基本について、（１）コミュニケーションとは、（２）コミュニケーションの基本、（３）コミュニケーションの理論と実際、について演習を展開する。

③学修目標

本科目の学修目標は、介護におけるコミュニケーションの基本、について、グループワーク演習を主体としてその理論とスキルを習得することを目標とする。

内容

1	オリエンテーション　～授業の概要～
2	コミュニケーションとは（１）～日常生活におけるコミュニケーション～
3	コミュニケーションとは（２）～日常生活におけるコミュニケーション場面～
4	コミュニケーションとは（３）～日常生活におけるコミュニケーション手段～
5	コミュニケーションの基本（１）～介護福祉士に求められるコミュニケーション能力～
6	コミュニケーションの基本（２）～介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル～
7	コミュニケーションの基本（３）～介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル～
8	コミュニケーションの理論と実際（１）～自己紹介と他者紹介～
9	コミュニケーションの理論と実際（２）～自己紹介と他者紹介～
10	コミュニケーションの理論と実際（３）～自己開示～
11	コミュニケーションの理論と実際（４）～伝言ゲーム～
12	コミュニケーションの理論と実際（５）～価値交流～
13	コミュニケーションの理論と実際（６）～交流分析と自己覚知～
14	コミュニケーションの理論と実際（７）～リーダーシップ理論～
15	まとめ

評価

課題レポート３０％、定期試験７０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：最新 介護福祉全書 4コミュニケーション技術

編集/松井　奈美ISBN：978-4-8392-3144-6

第１版/2008年 12月

他オリジナル資料配付

科　目　名	コミュニケーション技術Ⅱ		
担当教員名	宮内　寿彦		
ナンバリング	KDc231		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

① 科目の性格

介護福祉士に必要なコミュニケーション理論・技術についての演習を行う。

②授業の概要

　コミュニケーション技術Ⅱでは、（１）介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、（２）利用者の特性に応じたコミュニケーション（３）介護におけるチームのコミュニケーションの基本、について演習を展開する。

③学修目標

　本科目の学修目標は、（１）介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、（２）利用者の特性に応じたコミュニケーション（３）介護におけるチームのコミュニケーションの基本、グループワーク演習を主体としてその理論とスキルを習得することを目標とする。

内容

1	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本(１)
2	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本(２)
3	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本(１)
4	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本(２)
5	利用者の特性に応じたコミュニケーション（１）高齢者とコミュニケーション
6	利用者の特性に応じたコミュニケーション（２）認知症とコミュニケーション
7	利用者の特性に応じたコミュニケーション（３）認知症とコミュニケーション
8	利用者の特性に応じたコミュニケーション（１）障害とコミュニケーション
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション（２）障害とコミュニケーション
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション（３）障害とコミュニケーション
11	介護におけるチームのコミュニケーションの基本（１）
12	介護におけるチームのコミュニケーションの基本（２）
13	実習場面における再構成（１）
14	実習場面における再構成（２）
15	まとめ

評価

評価　課題レポート３０％、定期試験７０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書:最新 介護福祉全書 4コミュニケーション技術

編集/松井　奈美ISBN：978-4-8392-3144-6

第１版/2008年 12月

他オリジナル資料配付

科　目　名	生活支援技術概論		
担当教員名	野島　靖子		
ナンバリング	KDc132		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の１つである。

②科目の概要

私たちは「生活とは何か」について特に意識することなく、毎日を過ごしている。生活支援を理解するにあたり、最初に生活がどのような側面から構成されているかなど、「生活とは何か」を理解する必要がある。人としての生活とは、単に生命を維持するためのものではなく、家族、地域や社会とかかわりを持ちながら、人間として尊厳のある暮らしをすることである。

③学修目標

１．援助を必要な人にとって人間として尊厳のある暮らしとは、どのようなものかを理解する

２．自立や自己決定に基づく生活マネジメントについて理解する

３．基礎的な生活支援技術の理論を理解する

内容

1	ガイダンス　生活の定義
2	生活支援とは何か
3	自立に向けた生活支援　自立と自律
4	高齢者の生活の理解
5	生活における環境整備
6	高齢者施設における生活
7	障害者施設における生活
8	自立に向けた移動の介護①車いす
9	自立に向けた移動の介護②体位変換
10	自立に向けた移動の介護③安楽な体位
11	自立に向けた移動の介護④歩行
12	自立に向けた移乗の介護
13	自立に向けた清潔の介護
14	入浴の介護とは
15	まとめ

評価

課題レポート（30%）、ペーパーテスト（70%）とし、６０点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】事前に渡された予定表で確認し、テキストを読んでおく。

【事後学修】配布されたプリントをノートにまとめ、理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会　『生活支援技術Ⅰ、Ⅱ』　中央法規出版

科　目　名	日常生活支援技術Ⅰ		
担当教員名	野島　靖子		
ナンバリング	KDc133		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の１つである。生活支援技術概論と組み合わせた授業である。

②科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業は、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、安全に支援できる技術や知識を学ぶ。

③学修目標

１．支援を必要とする人の状態を把握し、適切な介護技術を選択できる。

２．基礎的な生活支援技術を科学的な理論とともに習得する。

内容

1	生活とは何か　生活支援における技術
2	生活支援技術とは何か
3	援助者の健康管理
4	高齢者疑似体験
5	ベッドメイキングの技術
6	施設における生活支援技術
7	観察とアセスメント
8	車いすの介護技術
9	体位変換の介護技術
10	安楽な体位の保持
11	歩行の介護技術
12	移乗の介護技術
13	清潔の介護技術
14	入浴の介護技術
15	まとめ

評価

課題レポート(20%)、実技試験（60%）、授業への取り組み（20%）とし、６０点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】初回に配布された予定表にもとづき、テキストをよく読んでおく。演習内容により服装・持ち物が異なるので

、事前に確認、準備をする。
【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにし、実習で実践できるように練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会　『生活支援技術Ⅰ、Ⅱ』　中央法規出版
【参考図書】介護技術全書編集委員会　『わかりやすい介護技術演習』　ミネルヴァ書房
壬生尚美　佐分行子　『事例で学ぶ生活支援技術習得　新カリ対応』　日総研

科　目　名	日常生活支援技術Ⅱ		
担当教員名	野島　靖子		
ナンバリング	KDc233		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護福祉士養成課程カリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の一つである。

②科目の概要

日常生活支援技術とは、介護を必要とする人に対して、自立に向けて様々な視点から生活を支援していくための技術である。日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、適切な介護技術を用いて、安全で安楽に支援できるように、知識や技能を習得する。科学的根拠にもとづく生活支援技術を用い、尊厳やプライバシーの保持といった介護の基本を実践においても生かす力を身につけるための学びである。

③学修目標（＝到達目標）

介護を必要とする人の自立（自律）に向けた介護について理解できる。
科学的根拠に基づいた生活支援技術について理解できる。
生活支援技術における多職種連携について理解できる。

内容

1	生活環境の理解①福祉機器展
2	生活環境の理解②福祉機器展の振り返り
3	自立に向けた身じたくの介護①整容
4	自立に向けた身じたくの介護②衣服の着脱
5	自立に向けた食事の介護①普通食
6	自立に向けた食事の介護②嚥下食
7	屋外における車椅子介助
8	様々な福祉用具について
9	他職種との連携
10	在宅サービス事業所における介護
11	自立に向けた排泄の介護①
12	自立に向けた排泄の介護②
13	自立に向けた排泄の介護③
14	睡眠の介護
15	まとめ

評価

課題レポート(30%)、ペーパーテスト(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合

は、再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】初回に配布する予定表により確認し、テキストを熟読する。

【事後学修】授業で学んだ箇所を読み返す。配布した資料を熟読する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集『生活支援技術Ⅱ』中央法規出版

【推薦書】授業の中で紹介する

科　目　名	日常生活支援技術Ⅲ		
担当教員名	野島　靖子、二瓶　さやか		
ナンバリング	KDc333		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の１つである。日常生活支援技術Ⅱと組み合わせた授業である。

②科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業は、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、安全に支援できる技術や知識を学ぶ。

③学修目標

１．介護を必要とする人の状態を把握し、適切な介護技術を選択できる。

２．介護を必要とする人の状態変化に応じ、プライバシーを保持し、安全・安楽に対応できる技術を習得する。

３．必要な福祉用具の機能を理解し、適切な用具を選択できる。

内容

1	高齢者・障害者における生活環境整備　福祉機器展
2	高齢者・障害者における生活環境整備　福祉機器展振り返り
3	整容の介護技術
4	衣服の着脱の介護技術
5	食事の介護技術①　普通食
6	食事の介護技術②　嚥下食
7	屋外における車いす介助の技術
8	福祉用具を活用した介護技術
9	様々な介護における多職種との連携
10	実習Ⅰ－①における介護技術
11	トイレ介助の技術
12	おむつ交換の介助技術
13	その他の排せつ介助方法
14	睡眠の介護（技術演習）
15	まとめ

評価

課題レポート(20%)、実技試験（60%）、授業への取り組み（20%）とし、６０点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】初回に配布する予定表により確認し、テキストをよく読んでおく。演習内容により服装・持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。
【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにし、実習で実践できるように練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会　『生活支援技術Ⅱ』　中央法規出版
【参考図書】介護技術全書編集委員会　『わかりやすい介護技術演習』　ミネルヴァ書房
壬生尚美　佐分行子　『事例で学ぶ生活支援技術習得　新カリ対応』　日総研

科　目　名	生活環境支援技術		
担当教員名	角田　真二		
ナンバリング	KDc234		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格 日本の住宅の抱える問題点を考え、住環境整備を進めるための基礎知識や基礎技術について理解を深める。

②科目の概要　講義と演習による。

③学修目標（＝到達目標）自立にむけた居住環境の整備と支援方法について理解できる。

内容

1	生活の理解と生活支援
2	居住環境整備の意義と目的
3	生活行動と生活空間
4	快適な室内環境（温度、湿度、採光、換気等）
5	住居の管理と安全（住居の維持管理・衛生管理・事故防止等）
6	心地よい生活の場づくりのための工夫
7	住宅改修・バリアフリー化の例
8	ユニバーサルデザインの視点と実際
9	高齢者と住居（ユニットケア、居室の個室化、施設での工夫
10	高齢者と住居（住み慣れた地域での生活の保障
11	障害者児者と住居（施設での工夫）
12	障害者児者と住居（住み慣れた地域での生活の保障）
13	自立に向けた居住環境の整備
14	他職種との連携
15	まとめ

評価

提出してもらうレポート（１５点）を、１５０点満点（１５X１０点満点）で計算し、９０点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】日常生活における道具の観察。1時間

【事後学修】自分の作成したレポートと他者のものとの比較を行う。１時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】特に無し

科　目　名	家事生活支援技術		
担当教員名	山口　典子		
ナンバリング	KDc235		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

この科目は、人間生活学部で学ぶすべての科目の基礎となる理論を説くものである。

人間生活の福祉を考えるうえで、その根底にあるのが家政学であり、人間生活はこれを基礎としている。福祉を学ぶ学生にとって家事生活支援技術は理論を見地化するうえで不可欠な科目である。授業を通して家庭生活について基本的な知識・技術を学び、日常の生活を充実させ、支援することのできる総合的な視点と思考力および実践的な態度を養う。

学修目標は次の通りである。

〇家事生活支援技術の基礎的技術と理論が理解できたか。

〇家事生活支援技術を学ぶ方法論が身についたか。

〇他の科目と総合し、学問的な態度をもって実践することができるか。

内容

1	ガイダンス（科目の学び方とその視点）
2	家庭生活の基礎知識（個人と家庭生活）
3	家庭生活の基礎知識（家庭生活とその経営、生活設計）
4	高齢者の家庭生活の特徴と問題点
5	障害者の家庭生活の特徴と問題点
6	家事援助の技法（調理１）
7	家事援助の技法（調理２）
8	家事援助の技法（掃除・ごみ捨て）
9	家事援助の技法（買い物）
10	家事援助の技法（衣生活の基礎知識）
11	家事援助の技法（衣類・寝具の衛生管理）
12	家事援助の技法（裁縫１）
13	家事援助の技法（裁縫２）
14	自立に向けた家事の介護（利用者の状況に応じた介護の留意点）
15	まとめ

評価

平常点・課題40%、試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

2/3以上出席することで評価を受けることができ、合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】積極的に家事に参加し、知識・技術を身につける。また、利用者に対してどのような支援ができるのかを常に考える。

【事後学修】プリントを精読しまとめる。技術・技能の習得は、練習を繰り返し行いしっかりと身につける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

科　目　名	**生活支援技術応用Ⅰ**		
担当教員名	野島　靖子		
ナンバリング	KDc236		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の１つである。

②科目の概要

感覚機能の低下、運動機能の低下など、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術について学ぶ。

③学修目標

１．介護が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重した支援を実施することができる。

２．利用者の状況に応じた適切な介護技術を選択し、安全に支援できる技術や知識を習得する。

３．視覚障害のある人の支援、聴覚障害のある人の支援について理解する。

内容

1	ガイダンス
2	実習現場における介護技術
3	実習施設種別に応じた介護技術
4	視覚障害に応じた介護とは「視覚障害者の生活の理解」
5	視覚に障害がある人の環境整備支援と食事の支援
6	視覚に障害がある人への歩行（移動）の支援
7	聴覚・言語障害に応じた介護とは「聴覚・言語障害の理解」
8	聴覚に障害がある人のコミュニケーション
9	重複障害（盲ろう）に応じた介護とは「盲ろうの理解」
10	重複障害（盲ろう）者の介護
11	利用者の状態・状況に応じた食事の介護とは「施設の介護食」
12	嚥下困難者のための食事作り
13	運動機能障害に応じた介護とは
14	重度運動機能障害がある人の移動の介護
15	まとめ

評価

口頭発表（20%）、実技試験（60%）、授業への参加度（20%）とし、６０点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】指示された課題を準備する

【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにできるように練習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会　『生活支援技術Ⅲ』　中央法規出版

科　目　名	生活支援技術応用Ⅱ		
担当教員名	山口　由美		
ナンバリング	KDc336		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護を必要とする人へ状況に応じ生活支援をする方法について学ぶ。障害に対する知識に基づいて生活支援について考える力を身につけてもらう。

②科目の概要

・「介護実習Ⅱ－１‐1」で実習する訪問介護サービスの基礎的知識について学ぶ

・重症心身障がい児（者）、高次脳機能障がい、運動障がい、知的障がい児（者）、認知症の人に対し、状況に応じた生活支援技術について学ぶ

③学修目標（＝到達目標）

・訪問介護の内容及び方法、その対象者への状況に応じた生活支援技術について理解できる。

・課題にとりくみ、考える力をつける。

・課題にとりくみ考えたことを言語化及び文章化できる。

内容

1	オリエンテーション　訪問介護の機能及び実際①
2	訪問介護の機能及び実際②
3	訪問介護の機能及び実際③
4	知的障がい、発達障がい、重症心身障がいのある人への介護①
5	知的障がい、発達障がい、重症心身障がいのある人への介護②
6	精神障がいのある人への介護①
7	精神障がいのある人への介護②
8	認知症のある人への介護①
9	認知症のある人への介護②
10	高次脳機能障がいのある人への介護①
11	高次脳機能障がいのある人への介護②
12	高次脳機能障がいのある人への介護③
13	運動機能障がいのある人への介護①
14	運動機能障がいのある人への介護②
15	まとめ

評価

授業への参観状況及び毎回の振りかえり内容20%
レポート40%、授業時の課題40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】 次回学ぶことについて提示するので、テキスト等を読んでくる。
【事後学修】 授業で学んだことについての課題、疑問点について調べる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会「生活支援技術Ⅲ」中央法規出版

科　目　名	生活支援技術展開Ⅰ		
担当教員名	二瓶　さやか		
ナンバリング	KDc237		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

福祉現場において、「福祉レクリエーション」を実践するために、福祉レクリエーション支援の実際を理解し、「コミュニケーションスキル」を習得する

②科目の概要

福祉レクリエーション支援の実際を理解し、支援に必要なスキル（主に初歩的なコミュニケーション技術及び健康支援技術）を習得できるよう、講義・演習で学習する

③学修目標（＝到達目標）

・レクリエーションについて理解し、活動の楽しさや面白さを体験できる
・コミュニケーションについて理解し、人と関わる意欲が醸成される
・レクリエーション支援者として必要な基礎技術を体験学習し、基礎を習得できる

内容

1	オリエンテーション
2	コミュニケーションとは
3	コミュニケーション演習１
4	コミュニケーション演習２
5	レクリエーションの目的・意義
6	レクリエーションに必要な知識・技術
7	レクリエーションの計画・準備
8	レクリエーションの実際と留意点１
9	レクリエーションの実際と留意点２
10	レクリエーションの評価と活動分析１
11	レクリエーションの評価と活動分析２
12	レクリエーションの活動アレンジ１
13	レクリエーションの活動アレンジ２
14	レクリエーションの活動アレンジ３
15	まとめ

評価

授業への取り組み（参加度・演習課題・レスポンスペーパー）70%、最終レポートを30%とし、総合評価60点以上を

合格とする。

授業外学習

【事前準備】次回の授業予定、課題の提示の際は必ず取り組むこと

【事後学修】毎回の授業内容の振り返り

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】「楽しさの追及を支えるための介入技術」日本レク協会編

科　目　名	介護過程基礎Ⅰ		
担当教員名	二瓶　さやか		
ナンバリング	KDc139		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本科目は介護過程の導入科目と位置づけ，次の3つをねらいとする．

1．介護過程を学ぶ前提として，人とのかかわりや，人の生活についての理解を深めることができる．

2．介護過程を学ぶ前提として，「課題解決思考」について理解できる．

3．「情報」の内容や意味を理解し，「情報」に基づき「利用者の願いや思い」を理解できる

②科目の概要

[授業の目的・ねらい]を達成するために，テーマに添った演習を行う．

③学修目標（＝到達目標）

1．介護過程の展開に必要な視点，「課題解決思考」及び「情報」について理解できる．（知識・理解）

2．自己学習及びグループ学習を通し，提示したワークを達成できる．（思考・技能・実践）

3．授業内容に対し，自ら取り組み，考える態度を持つ．（態度・志向性）

4．他者と意見交換し，相互に学びあう姿勢を持つ．（態度・志向性）

5．提示したワークに対し，提出物は締め切を厳守して提出できる。（態度・志向性）

内容

1	Ⅰ　「かかわり」ってなんだろう　＜共通項をみつけ，ポスターをつくろう＞
2	Ⅰ　「かかわり」ってなんだろう　　振り返りと共有
3	Ⅰ　「かかわり」ってなんだろう　＜相手の立場になって考える
4	Ⅱ　「くらし」ってなんだろう　　＜私の過ごし方＞
5	Ⅱ　「くらし」ってなんだろう　　＜高齢者が生きてきた時代＞
6	Ⅱ　「くらし」ってなんだろう　　＜高齢者が生きてきた時代＞
7	高齢者から学ぶ
8	Ⅲ　課題解決思考　＜課題解決思考を体験する＞
9	Ⅲ　課題解決思考　＜課題解決思考を体験する＞
10	Ⅲ　課題解決思考　＜課題解決思考を体験する＞
11	Ⅳ　情報の理解と情報収集　＜観察し，情報を記録する＞
12	Ⅳ　情報の理解と情報収集　＜項目に沿って情報収集する＞
13	Ⅴ　情報の分析・解釈・判断　＜情報の分析・解釈・判断について理解する＞
14	Ⅴ　情報の分析・解釈・判断　＜情報の分析・解釈・判断について理解する＞
15	Ⅴ　情報の分析・解釈・判断　＜情報の分析・解釈・判断について理解する＞

評価

1.授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：10%
2.演習課題の提出（内容評価含む）：70%
3.レポート：20%
総合評価60点以上を合格とする．不合格の場合は，演習課題及びレポートの再提出により評価する．

授業外学習

【事前準備】　次回の授業予定，宿題を提示するので，必ず取り組むこと．
【事後学修】　毎回の授業内容を振り返るとともに，専門用語や疑問点について調べる．

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】『楽しく学ぶ介護過程』（改訂第2版）．久美出版，2012年．

科　目　名	介護過程基礎Ⅱ		
担当教員名	二瓶　さやか		
ナンバリング	KDc239		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本科目は、介護過程の概要を理解する科目と位置づけ、次の２つをねらいとする

１．介護過程の目的、介護過程の構成要素について理解し、説明できる

２．一人で介護過程を一通り展開できる

②科目の概要

介護過程を一人で一通り展開できるよう、教授する

③学修目標（＝到達目標）

１．介護過程は介護の思考過程、実践方法及び実践過程であることを理解できる（知識・理解）

２．介護過程の目的、介護過程の構成要素について理解できる（知識・理解）

３．既に学んだ介護の知識・技術・価値を統合し、介護過程の展開ができる（思考・技能・実践）

４．提示した課題に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ（態度・志向性）

５．提出物は締め切りを厳守して提出できる（態度・志向性）

内容

1	オリエンテーション
2	介護過程の理解　＜定義・目的・構成要素＞
3	ICFの視点から利用者を理解する
4	語り、ライフヒストリーから利用者を理解する
5	介護過程の展開（事例１）
6	介護過程の展開（事例１）
7	介護過程の展開（事例１）
8	介護過程の展開（事例１）
9	介護過程の展開（事例２）
10	介護過程の展開（事例２）
11	介護過程の展開（事例２）
12	介護過程の展開（事例２）
13	介護過程の展開（事例２）
14	介護過程の展開（事例２）
15	まとめ

評価

１．授業への参加状況及び毎回の振り返り内容　２０％
２．課題の提出　６０％
　総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、課題の再提出により評価する

授業外学習

【事前準備】宿題を提示するので、必ず取り組むこと
【事後学修】毎回の授業内容を振り返るとともに、専門用語や疑問点について調べる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『楽しく学ぶ介護過程』（改訂第２版）久美出版，２０１２年

科　目　名	介護過程展開Ⅰ		
担当教員名	宮内　寿彦		
ナンバリング	KDc240		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護過程基礎で学んだ１．介護過程の４つの構成要素（①アセスメント→計画立案→実践→評価・考察）、２．ICF理論について、を基礎とし、介護過程展開Ⅰでは、事例（主に高齢者と障害者）によるケアプランの作成と介護過程の展開プロセスの理解を深めることを目的とする。

②科目の概要

高齢者の事例を提示し、グループワークを展開しグループ発表を行う。介護保険制度の概要についても理解を深める。

③学修内容

３年次の応用介護実習における、個別のケアプランの作成の基礎技能を身に付けることを到達課題とする。

内容

1	オリエンテーション　内　容：事例研究の進め方とグループワークの内容について理解
2	事例１．高齢者施設利用者のケアプラン①内　容：事例1．のグループワーク演習実践
3	事例１．高齢者施設利用者のケアプラン②内　容：事例1．のグループワーク演習実践
4	事例１．高齢者施設利用者のケアプラン③内　容：事例1．グループワーク演習（発表準備）
5	事例１．高齢者施設利用者のケアプラン④内　容：事例1．グループワーク発表
6	事例２．居宅サービス利用者のケアプラン①内　容：事例２．のグループワーク演習実践
7	事例２．居宅サービス利用者のケアプラン②内　容：事例２．のグループワーク演習実践
8	事例２．居宅サービス利用者のケアプラン③内　容：事例２．のグループワーク（発表準備）
9	事例２．居宅サービス利用者のケアプラン④内　容：事例２．グループワーク発表
10	事例２．認知症高齢者のケアプラン①内　容：事例２．のグループワーク演習実践
11	事例２．認知症高齢者のケアプラン②内　容：事例２．のグループワーク演習実践
12	事例２．認知症高齢者のケアプラン③内　容：事例２．のグループワーク演習（発表準備）
13	事例２．認知症高齢者のケアプラン④内　容：事例２．グループワーク演習実践発表
14	テーマ：高齢者のケアプラン・介護過程総括　内　容：高齢者のケアプラン・介護過程総括
15	まとめ

評価

評価　１．演習発表内容４０％、２．筆記試験６０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスに沿って、配布オリジナル資料の学習箇所を事前に読み、わからない用語及び関連用語を確認するこ

と。
【事後学修】授業で行った配布オリジナル資料の学習箇所を再度読み、わからなかった用語及び関連用語の理解を確認すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリジナル資料の配付。

科　目　名	**発達と老化Ⅰ**		
担当教員名	川上　裕子		
ナンバリング	KDc142		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

＜科目の性格・科目の概要＞

発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。

＜学修目標（＝到達目標）＞

1. 人間の成長と発達の観点から人の一生について理解し、説明できる。
2. 老化に伴う心身機能の変化を理解し、説明できる。
3. 老化に伴う心身機能の変化を踏まえ、援助に必要な基礎的知識を理解し、説明できる。

内容

1	人間の成長と発達の基礎的理解
2	生涯発達の各段階の理解①乳幼児期・児童期の発達
3	生涯発達の各段階の理解②青年期・成人期の発達
4	生涯発達の各段階の理解③老年期の発達と成熟
5	社会の中の高齢者
6	老化の理解
7	老化に伴うからだの変化①身体的機能の変化と日常生活への影響
8	老化に伴うからだの変化②知的機能の変化と日常生活への影響
9	高齢者に多い症状と日常生活上の留意点
10	高齢者に多い病気と日常生活上の留意点
11	老化に伴うこころの変化①老化が及ぼす心理的影響、老いの価値観
12	老化に伴うこころの変化②こころの問題と精神障害
13	老年期の人間関係
14	保健医療職との連携
15	まとめ

評価

学期末試験60点、授業への取り組み（出席、リアクションペーパーの提出、小レポート等）40点による総合評価とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書に沿って進行するので、事前に該当箇所を読んでおくこと。

【事後学修】教科書や配布資料の内容を振り返り、理解を深めておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編，『発達と老化の理解（新・介護福祉士養成講座11）』中央法規出版.

【参考図書】授業内で適宜、紹介する。

科　目　名	**発達と老化Ⅱ**		
担当教員名	蝦名　直美		
ナンバリング	KDc242		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

●科目の性格：人間発達について学び、対人援助の際の手掛かりを得る。

●科目の概要：心理学の観点から、人間の発達過程を理解する

●学修目標：各発達段階でどのような変化が起きるのか、発達を支援するためにはどのようなことが必要か理解する。

内容

1	ガイダンス・発達とは何か
2	発達における遺伝と環境
3	発達段階と発達課題
4	子どもの心身の発達と養育
5	知覚・注意の発達と老化
6	記憶の発達と老化
7	感情の発達と老化
8	動機づけの発達と老化
9	人格の発達と老化
10	知能の発達と老化
11	ストレスと適応
12	老年期における喪失
13	認知症とケア
14	老年期のＱＯＬと死
15	まとめ

評価

平常点を15点、小テストを35点、期末試験を50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に資料を配布するので、授業開始までに読んでおくこと。

【事後学修】授業で扱ったトピックについて、次の授業までに内容を説明できるようにしておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しません。

資料・参考図書は授業中に紹介します。

科　目　名	認知症の理解Ⅰ		
担当教員名	山口　由美		
ナンバリング	KDc243		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護福祉士指定科目である。

認知症については正しく理解されていないことも多いため、認知症に関する基本的・標準的で正しい理解に努めたい

②科目の概要

認知症に関する中核症状及び周辺症状など医学的な理解をはじめ、認知症の人を支援する際に注意すること、認知症の人を介護する家族の心理などについて学ぶ。認知症の人の考えていることや状態について理解を深めてほしい

③学修目標（＝到達目標）

認知症の種類及び病態について理解する

認知症の人の考えていることや感じ方について理解する

家族の心理及び家族支援について理解する

介護予防上の留意点について理解する

倫理的な問題、関連する社会制度及び課題について理解する

内容

1	オリエンテーション　なぜ認知症について理解する必要があるのか。
2	認知症の人の体験の理解　　「恍惚の人」から学ぶ①
3	認知症の人の体験の理解　　「恍惚の人」から学ぶ②
4	認知症の人の体験の理解　　「毎日がアルツハイマー」から学ぶ
5	認知症を取り巻く状況　　①認知症ケアの歴史
6	認知症を取り巻く状況　　②認知症ケアの理念と視点
7	認知症の人の医学・行動・心理的理解　　認知症とは何か①
8	認知症の人の医学・行動・心理的理解　　認知症とは何か②
9	認知症の人の医学・行動・心理的理解　　認知症とは何か③
10	認知症の人の医学・行動・心理的理解　　④認知症の治療・予防
11	認知症の人の医学・行動・心理的理解　　⑤認知症の人の行動と心理
12	認知症の人の生活理解　　①認知機能の変化が生活に及ぼす影響
13	認知症の人の生活理解　　②環境の力
14	認知症の人の生活理解　　③若年性認知症の人の理解
15	まとめ

評価

学習状況・レポート提出状況40%）　ペーパーテスト60%）を総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書の指定された箇所を熟読する

【事後学修】授業で学んだ箇所を読み直す。資料等を熟読する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集『認知症の理解　第2版』中央法規出版

【推薦書】授業の中で紹介する

科　目　名	認知症の理解Ⅱ		
担当教員名	新井　幸恵		
ナンバリング	KDc343		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

科目の性格

介護福祉士指定科目

認知症の理解Ⅰで得た知識をもとに介護に必要な視点と手法を学ぶ

科目の概要

当事者の思いや願いを汲み取る

家族環境、生活環境、施設環境、病型、進行レベルによる介護の展開

施設、地域、家庭など介護が展開される場の理解

認知症を患う家族の状況とその支援

地域包括支援センター等地域社会資源の理解とその連携

＊当事者または介護福祉士による講義により、実践的課題を探る

学修目標

当事者の思いや願いを汲み取ることができる

認知症利用者へのステージ別介護の基本が理解できる

家族や地域社会への支援の必要性、実際が理解できる

内容

1	オリエンテーション　認知症の人のくらしを理解する（１）映像に見る認知症の人の想いや願い
2	認知症の人のくらしを理解する（２）映像に見る認知症の人の想いや願い
3	認知症の人のくらしを理解する（３）映像から考える認知症の人のかかわりの基本
4	認知症の人の介護過程～本人や家族の思いや願いから始める介護
5	認知症の初期・中期にある人の介護
6	認知症の後期・終末期にある人の介護
7	地域の連携と協働の実際
8	中間のまとめ
9	家族の体験と現状に学ぶ～家族支援のありかた
10	介護福祉士の実践～認知症ケアの現場に学ぶ
11	認知症の人の支援に生かす技法（１）回想法と民俗学の共同　介護と伝承
12	認知症の人の支援に生かす技法（２）バリデーションケア　理念と実際
13	課題の発表（１）
14	課題の発表（２）
15	課題の発表・提出（３）まとめ

評価

授業目標に沿った課題の提出２０％、授業参加態度３０％、試験５０％
合計60%に達しない場合は再試験を実施

授業外学習

【事前予習}　テキスト当該章を読み、参考文献にも目を通す
【事後学修】参考文献を１冊以上読み感想・考察をレポートする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書　「認知症の理解」中央法規出版
推薦書：小沢勲　「認知症とは何か」岩波新書
　　野村豊子「回想法とライフレビュー」中央法規

科　目　名	**障がいの理解Ⅰ**		
担当教員名	太田　真智子		
ナンバリング	KDc144		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格／介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①1科目の性格

　本科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける科目であり国家受験取得に必要な科目である。

②科目の概要

　講義を中心とし、障害のある人の医学的側面からの理解、特性及び生活上の諸問題及び介護上の注意点などについて理解を深める。障害の理解Ⅰでは身体障害のある方の理解について主に学ぶ。

③学修目標

・障害のある人の医学的理解から、心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。
・障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。
・障害のある人の立場から、介護の視点を考えることができる。

内容

1	障害の基礎的理解、障害の概念、障害の捉え方
2	障害者福祉の基本理念・ICF等
3	障害のある人の心理、障害が及ぼす心的影響
4	障害の受容・適応と適応機制　その他
5	身体障害　肢体不自由に伴う機能の変化と日常生活への影響
6	身体障害　視覚障害に伴う機能の変化と日常生活への影響
7	身体障害　聴覚障害に伴う機能の変化と日常生活への影響
8	身体障害　言語機能障害に伴う機能の変化と日常生活への影響
9	身体障害　内部障害に伴う機能の変化と日常生活への影響①
10	身体障害　内部障害に伴う機能の変化と日常生活への影響②
11	身体障害　内部障害に伴う機能の変化と日常生活への影響③
12	身体障害　内部障害に伴う機能の変化と日常生活への影響④
13	身体障害　内部障害に伴う機能の変化と日常生活への影響⑤
14	身体障害　内部障害に伴う機能の変化と日常生活への影響⑥
15	まとめ

評価

試験60点　レポート15点・小テスト15点　平常点10点　とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】事前にテキストに目を通しておくこと

【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】谷口敏代編集「最新介護福祉全書11障害の理解」メヂカルフレンド社

【推薦書】随時紹介する。

【参考図書】随時紹介する

科　目　名	**障がいの理解Ⅱ**		
担当教員名	太田　真智子		
ナンバリング	KDc244		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格／介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①1科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける科目であり国家受験資格取得に必要な科目である。

②科目の概要

障害の理解Ⅰに引き続き、講義を中心とし、障害のある人の特性や生活上の諸問題及び介護上の注意点などについて理解を深める。

③学修目標

・障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。
・障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。
・障害のある人の立場から、介護の視点を考えることができる。

内容

1	障害の基礎的理解、障害の概念、障害の捉え方の復習
2	障害者の人権、障害者福祉の理念、ノーマライゼーション、国際障害者年の理念,他復習
3	障害のある人の心理、障害が及ぼす心理的影響等復習
4	発達障害に伴う機能の変化と日常生活への影響
5	知的障害を伴う機能の変化と日常生活への影響
6	精神障害に伴う機能の変化と日常生活への影響
7	高次脳機能障害に伴う機能の変化と日常生活への影響①
8	高次脳機能障害に伴う機能の変化と日常生活への影響②
9	全介助を要する人の理解
10	難病に伴う機能の変化と日常生活への影響①
11	難病に伴う機能の変化と日常生活への影響②
12	難病に伴う機能の変化と日常生活への影響③
13	連携と協働、地域におけるサポート体制
14	家族への支援
15	まとめ

評価

試験60点　レポート15点・小テスト15点　平常点10点　とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと
【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：谷口敏代編集「最新介護福祉全書11障害の理解」メヂカルフレンド社
推薦書・参考書等は随時紹介する。

科　目　名	こころとからだのしくみⅠ		
担当教員名	山口　由美		
ナンバリング	KDc245		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

　介護福祉士指定科目である。

こころとからだの両面から利用者の状態を見て、適切な介護方法を導き出す為の根拠となる基礎的知識を習得する

②科目の概要

人体の構造と身体各部の名称・役割を理解した上で、具体的な介護場面（身じたく・移動・食事・排泄・入浴・睡眠等）に関連したこころとからだのしくみについて学んでいく。

③学修目標（＝到達目標）

介護を必要とする人の生活機能に関連したこころとからだのしくみを理解し、介護実践に適切に活用できる知識を習得する。

内容

1	オリエンテーション　こころとからだのしくみを理解する必要性をしる
2	こころとからだのつながり及び、健康について理解する　こころのしくみを理解する
3	からだのしくみを理解する。　循環器系　呼吸器系
4	からだのしくみを理解する。　消化器
5	からだのしくみを理解する。　感覚器　泌尿器
6	からだのしくみを理解する　　内分泌器
7	からだのしくみを理解する　　脳神経系
8	からだのしくみを理解する　ボディメカニクス
9	「身じたく」に関連したしくみ　　①基礎知識
10	「身じたく」に関連したしくみ　　②心身の機能低下が身支度に及ぼす影響
11	「身じたく」に関連したしくみ　　③変化の気づきと対対応
12	「移動」に関連したしくみ　　①基礎知識
13	「移動」に関連したしくみ　　②心身の機能低下が移動に及ぼす影響
14	「移動」に関連したしくみ　　③変化の気づきと対応
15	まとめ

評価

学習状況・レポート提出状況（40%）　ペーパーテスト（60%）で総合的に評価し、60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書で指定された箇所を熟読する

【事後学修】授業で学んだ箇所を読み返す。資料等を熟読する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集　『こころとからだのしくみ　第3版』中央法規出版

【推薦書】授業の中で紹介する

科　目　名	**こころとからだのしくみⅡ**		
担当教員名	山口　由美		
ナンバリング	KDc345		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

こころとからだの両面から利用者の状態を見て、適切な介護方法を導き出す為の根拠となる基礎的知識を習得する

②科目の概要

人体の構造と身体各部の名称・役割を理解した上で、具体的な介護場面に関連したこころとからだのしくみについて学んでいく。

③学修目標（＝到達目標）

介護を必要とする人の生活機能に関連したこころとからだのしくみを理解し、介護実践に適切に活用できる知識を習得する。

最後に終末期におけるこころとからだについて学び、介護を実践することの意味・意義を考える。

内容

1	「食事」に関連したしくみ　①　基礎的知識
2	「食事」に関連したしくみ　②　心身の機能低下が及ぼす影響
3	「食事」に関連したしくみ　③　変化と気づきの対応
4	「入浴・清潔保持」に関連したしくみ　①　基礎的知識
5	「入浴・清潔保持」に関連したしくみ　②　心身の機能低下が及ぼす影響
6	「入浴・清潔保持」に関連したしくみ　③　変化と気づきの対応
7	「排泄」に関連したしくみ　①　基礎的知識
8	「排泄」に関連したしくみ　②　心身の機能低下が及ぼす影響
9	「排泄」に関連したしくみ　③　変化と気づきの対応
10	「睡眠」に関連したしくみ　①基礎知識　②心身の機能低下が移動に及ぼす影響
11	「睡眠」に関連したしくみ　③変化の気づきと対応
12	「死にゆく人」に関連したしくみ　①　基礎的知識
13	「死にゆく人」に関連したしくみ　介護の現場から～ゲスト講師～
14	「死にゆく人」に関連したしくみ　②心身の機能低下が及ぼす影響
15	まとめ

評価

学習状況・レポート提出状況（40%）　ペーパーテスト（60%）を総合的に評価し、　60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】教科書の指定された箇所を熟読する

【事後学修】授業で学んだ箇所を読み返す。資料を熟読する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集　『こころとからだのしくみ　第3版』　中央法規出版

科　目　名	**保育原理**		
担当教員名	亀﨑　美沙子		
ナンバリング	KDd147		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

この科目は「保育士資格」取得のための必修科目である。

②科目の概要

乳幼児期の保育に関する制度や歴史、保育の本質とその意義について学んでいく。保育士業務に関する基礎的かつ重要な内容であることから、適宜試験やレポート作成などを行い、知識の定着を図っていく。

③学修目標（＝到達目標）

保育所等における保育について、その背景にある諸制度、思想、歴史を理解すること、これらを踏まえた保育者の役割や職業倫理について理解することを目標とする。

内容

1	ガイダンス
2	保育所等の諸制度（１）保育所等の機能と役割
3	保育所等の諸制度（２）保育所等の制度的枠組み
4	保育所等の諸制度（３）保育職の資格・免許
5	諸制度のまとめ
6	保育の思想と歴史（１）諸外国
7	保育の思想と歴史（２）日本
8	保育の本質とその意義（１）乳幼児の発達
9	保育の本質とその意義（２）保育の目標と方法
10	保育の本質とその意義（３）環境を通した総合的な指導
11	保育の本質とその意義（４）保育の環境
12	保育の実際（１）
13	保育の実際（２）
14	保育の本質とその意義のまとめ
15	全体のまとめ

評価

評価は①授業への取り組み10%、②提出物（レポート、コメントシート、ワークシート等）40%、③試験50%とし、
総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業内で事前配布する予習プリントに、予め内容を記入し持参すること。

【事後学修】各回の授業内容を各自でまとめておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

厚生労働省（2008）『保育所保育指針解説書』フレーベル館

文部科学省（2008）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

子どもと保育総合研究所監修『最新保育資料集2016』ミネルヴァ書房

（フジショップで各自購入すること）

【参考図書】

森上史朗・柏女霊峰編『保育用語事典第7版』ミネルヴァ書房

科　目　名	**教育原理**		
担当教員名	大山　博幸		
ナンバリング	KDd248		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本授業は、学科の専門選択科目であり、保育士課程の指定科目である。

②科目の概要

近代教育学の概要を踏まえ、幼児教育の理論と実践、今日の現状について理解する。

また、生涯教育の観点から、保育士としての専門職における学習と職能成長について言及する。

③学修目標（＝到達目標）

教育学(幼児教育を含む）の主要な概念を理解し、説明できる。保育実践をするにあたり、幼児教育に対する自分自身の考えや立場を明示できる。保育士としての自身の職能成長において必要な学びを語ることができる。

内容

1	オリエンテーション
2	教育とは何か：教育の目的、ホリスティック教育における3つの学習
3	学習とは何か：心理学の知見を中心に
4	近代教育学の思想：近代子ども感の誕生、ルソー、ヘルバルト、ペスタロッチ、
5	近代教育学の思想２：フレーベル
6	子どもの人権と福祉１：子どもの権利条約
7	子どもの人権と福祉２：子どもの虐待、貧困
8	子どもの教育とケアリング：メイヤロフ、ノティングス、佐藤学など
9	子どもと自然：野外教育を事例として
10	ホリスティック教育１：概論、理論
11	ホリスティック教育２：実践、居場所づくり、アートと教育など
12	生涯教育の概要
13	保育士としての職能成長と生涯学習
14	ケアする人としての成長
15	まとめ

評価

授業中のミニワークを40点、最終レポート課題を60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】自分自身のこれまで教育を受けた経験から、教育についてのイメージをブレインストーミングで挙げてみましょう。
【事後学修】自分自身の子どもに対する教育観について、言及し記述してみましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用せず。資料等を授業等に配布。
【推薦書】広田照幸・塩崎美穂編著（2010）教育原理、樹村房　山野則子他（2012）福祉教育学の招待、せせらぎ書房
【参考図書】　佐藤学（1995）学びその死と再生、太郎次郎社　ノディングズ（1997）ケアリング、晃洋書房

科　目　名	乳幼児期の心理学		
担当教員名	亀田　秀子		
ナンバリング	KDd151		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

生涯発達の観点から、子どもの発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、発達援助のあり方を理解することを目指す。

②科目の概要

乳幼児期の発達と保育者の役割について理解する。また、子どもの情緒の発達、ことばの発達、記憶の発達等を理解し、人とのかかわりを通して成長することの理解を深める。

さらに、生涯発達の観点で子どもの発達をとらえ、子どもの発達を援助する方法と評価について理解する。

③学修目標（＝到達目標）

保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。

子どもの心身の発達にかかわる心理学の基礎の理解を深める。

子どもが人との相互的かかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

生涯発達の観点から、発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、保育との関連を考察する。

各回の講義後に出される課題に取り組み、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

内容

1	保育と心理学―子どもの発達を学ぶのはなぜか、子どもの見方・とらえ方
2	子どもの発達と環境―子どもの発達と環境
3	子どもの発達と環境―からだの発達と運動機能
4	子どもの発達と環境―見ること・考えることの発達
5	子どもの発達と環境―情緒の発達と自己の形成
6	子どもの発達と環境―ことばの発達
7	人との相互的かかわりと子どもの発達―基本的信頼感の獲得
8	人との相互的かかわりと子どもの発達―人とのかかわり
9	人との相互的かかわりと子どもの発達―友達関係と遊びの発達
10	学びと発達―記憶の発達、学びのしくみ
11	学びと発達―やる気と環境
12	生涯発達と発達援助―発達段階と発達課題、胎児期および新生児期、乳幼児期
13	生涯発達と発達援助―児童期、青年期、成人期以降の課題
14	発達援助と評価―発達援助の意義、保育実践の評価と心理学
15	まとめ

評価

提出課題等、40点、期末テスト60点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】毎回の講義までに、テキストの指定箇所を読み、分からない点、疑問点について
各自、調 べて持参すること。
【事後学修】講義内容をよく復習し、理解しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子著『保育の心理学』第２版　ナカニシヤ出版
【推薦書】内田伸子編『よくわかる乳幼児心理学』ミネルヴァ書房
【参考図書】亀田秀子著　いじめ・不登校・虐待と向き合う支援と対応の実際　三恵社

科　目　名	**保育の心理学Ⅱ**		
担当教員名	亀田　秀子		
ナンバリング	KDd251		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育における子どもの発達援助について、事例を通して理解する。

「保育の心理学Ⅱ」は、「乳幼児期の心理学」で学んだことを演習科目としてさらに深めていく。

②科目の概要

「乳幼児期の心理学」の内容を踏まえて、より実践的に子どもの発達と保育者の役割について理解を深める。子ども同士の関わりの広がりや学びの過程で遊びが果たす役割、保育者の援助のポイントについて理解を深めると共に、発達援助についての事例検討も含めた実践的な課題を通して理解を深める。

③学修目標（＝到達目標）

子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。

生活と遊びを通してのこどもの経験や学習の過程を理解する。

保育における発達援助について学ぶ。

演習科目という特質を踏まえて、実践的なワークを通して理解を深める。

各回の講義後に出される課題に取り組み、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

内容

1	子どもの発達と保育実践―子ども理解における発達の把握
2	子どもの発達と保育実践―個人差や発達過程に応じた保育
3	子どもの発達と保育実践―身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用
4	子どもの発達と保育実践―環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもの発達と保育実践―子ども相互のかかわりと関係づくり
6	子どもの発達と保育実践―自己主張と自己抑制
7	子どもの発達と保育実践―子ども集団と保育の環境
8	生活や遊びを通した学びの過程―子どもの生活と遊び
9	生活や遊びを通した学びの過程―子どもの遊びと学び
10	生活や遊びを通した学びの過程―生涯にわたる生きる力の基礎を培う
11	保育における発達援助―基本的生活習慣の獲得・自己の主体性の形成と発達援助
12	保育における発達援助―発達の課題に応じた援助やかかわり、発達の連続性と就学への支援
13	保育における発達援助―発達援助における協働、現代社会における子どもの発達と保育の課題
14	保護者への支援―様々な保護者の存在と支援の目的とその理解、配慮を要する保護者
15	まとめ

評価

提出課題等40点、期末テスト60点で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】毎回の講義までに、テキストの指定箇所を読み、分からない点、疑問点について各自、調　べて持参すること。

【事後学修】講義内容をよく復習し、理解しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】井戸ゆかり編著、園田巌・紺野道子『保育の心理学Ⅱ』　萌文書林

【推薦書】青木紀久代編『実践・発達心理学』　株式会社みらい

【参考図書】亀田秀子著　いじめ・不登校・虐待と向き合う支援と対応の実際　三恵社

科　目　名	子どもの保健Ⅰ		
担当教員名	深田　一枝		
ナンバリング	KDd152		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられている。

子どもの健康増進や安全管理について学ぶ。

②科目の概要

子どもの成長発達の過程を理解し、子どもの日常生活の養護、集団保育における衛生管理と安全管理、子どもの精神保健などについて学ぶ。

③学修目標（＝到達目標）

１．子どもの成長発達の特徴について説明できる。

２．子どもの日常生活に必要な養護について説明できる。

３．集団保育における衛生管理と安全管理のあり方について説明できる。

４．子どもの精神保健の重要性について説明できる。

内容

1	子どもの保育と保健・養護
2	子どもの成長発達
3	子どもの日常生活の養護（抱っこ、おんぶ、ベビーカー）
4	子どもの日常生活の養護（子どもの栄養と食事、睡眠）
5	子どもの日常生活の養護（排泄、衣生活、身体の清潔）
6	生理的機能の発達（呼吸、循環、体温）
7	生理的機能の発達（水分と電解質、血液と免疫）
8	運動機能の発達
9	精神機能の発達
10	集団保育における衛生管理
11	事故防止と安全管理
12	緊急時の応急手当
13	子どもの精神保健（生活環境と精神保健）
14	子どもの精神保健（子どもの心の健康と課題）
15	まとめ

評価

授業への取り組み２０％　課題３０％　試験５０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書の関連するページを読む。

【事後学修】授業のポイントを整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著　第２版　子どもの保健・実習　すこやかな育ちをサポートするために　同文書院

科　目　名	子どもの保健Ⅱ		
担当教員名	深田　一枝		
ナンバリング	KDd252		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられている。

子どもの健康増進や安全管理について学ぶ。

②科目の概要

　子どもがかかりやすい疾病やその予防について学ぶ。また、体調不良の子どもへの対応が適切にできるように学ぶ。講義中心の学習であるが、保育の現場をイメージしやすいよう事例等を用いて学ぶ。

③学修目標（＝到達目標）

１．子どもの疾病とその予防について説明できる。

２．体調不良の子どもへの対応について説明できる。

３．保育所と家庭や地域との連携のあり方について説明できる。

４．主な母子保健対策について説明できる。

内容

1	子どもの疾病と保育　①子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴
2	子どもの疾病と保育　②子どもの疾病の予防と適切な対応
3	子どもの疾患と適切な対応　①体調不良の子どもへの対応
4	子どもの疾患と適切な対応　②感染症の予防と対応
5	子どもの疾患と適切な対応　③子どもの発疹性疾患
6	子どもの疾患と適切な対応　④予防接種
7	子どもの疾患と適切な対応　⑤慢性疾患児への適切な対応
8	乳児への適切な対応
9	障がいのある子どもへの適切な対応
10	保健計画の作成と保健活動の評価
11	子どもの健康と安全・衛生管理
12	保育所と家庭や地域との連携
13	わが国の母子保健の現状
14	母子保健対策と保育
15	まとめ

評価

授業への取り組み２０％　課題３０％　試験５０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書の関連するページを読む。

【事後学修】授業のポイントを整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著　第２版　子どもの保健・実習　すこやかな育ちをサポートするために　同文書院

科　目　名	子どもの保健演習		
担当教員名	深田　一枝		
ナンバリング	KDd253		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられている。

保育実践に必要な保健活動を具体的に学び、小児保健の援助能力を養う。

②科目の概要

「子どもの保健Ⅰ」で学んだ知識を基礎とし、演習を通して、子どもの発育・発達の状況や健康状態を適切に把握し、子どもの健康を保持増進するために疾病や事故の予防および対応について学ぶ。また、心身の発達を促す保健活動や保育環境のあり方についても学ぶ。

③学修目標（＝到達目標）

１．子どもの発育・発達の状況および健康状態を適切に把握できる。

２．子どもの発育・発達に応じた日常生活の養護が適切に実施できる。

３．子どもの疾病とその予防や対応について説明できる。

４．保育環境の調整や事故防止など健康安全管理のあり方について説明できる。

内容

1	子どもの特性
2	身体発育の測定と評価
3	日常生活の養護（抱き方、授乳、寝かせ方）
4	日常生活の養護（おむつ交換、着衣）
5	日常生活の養護（沐浴）
6	健康観察と評価
7	一般的な症状への対応
8	保育環境の調整
9	感染症の予防対策
10	事故防止
11	健康安全管理
12	応急手当
13	一次救命処置
14	健康教育の実際
15	まとめ

評価

授業への取り組み２０％　課題３０％　試験５０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】事前学習プリント提出

【事後学修】演習での学びを整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子編著　第２版　子どもの保健・実習　すこやかな育ちをサポートするために　同文書院

科　目　名	子どもの食と栄養		
担当教員名	小林　三智子		
ナンバリング	KDd254		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

　この科目は、保育士養成課程教育カリキュラムにおける必修科目であり、「保育の対象を理解すること」を目的としています。小児期の食生活や栄養に関する基本的知識と保育実践に係る食育の基本と内容について学ぶ演習科目です。

②科目の概要

　乳幼児期の栄養を中心として成長・発達期の栄養のもつ意義を学習します。さらに、小児栄養の重要性を理解して、未来を担う子どもたちが健全な発育をしていくために取られている対策を学びます。また、子どもの発育の特徴と実態を把握し、食べる機能や消化吸収機能の発達について理解を深め、子どもの発育や栄養状態を評価する意義と方法を理解します。

③学修目標（＝到達目標）

１．健康な生活を基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ
２．子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める
３．食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する
４．家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ
５．特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する

内容

1	オリエンテーション、乳幼児栄養の考え方 、子どもの健康と食生活の意義
2	栄養に関する基本的知識(1)　栄養の基本的概念
3	栄養に関する基礎知識(2)　栄養素の種類と機能
4	栄養に関する基礎知識(3)　食事摂取基準と献立作成
5	乳児期の食生活(講義)母乳栄養・人工乳栄養・混合栄養
6	乳児期の食生活（実習）調乳
7	離乳の意義と食生活（講義）
8	離乳の意義と食生活（実習）離乳食
9	幼児期の心身の発達と食生活
10	学童期の心身の発達と食生活
11	生涯発達と食生活
12	食育の基本と内容
13	家庭や児童福祉施設における食事と栄養
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
15	まとめ

評価

授業内の小試験および期末試験により総合的に評価する。

評価の比率は、小試験30%、期末試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】シラバスを確認し、授業内容について事前にテキストを読んでから、授業に臨んでください。
【事後学修】授業で配付する資料は、その時間内で必ず理解しておいて欲しい内容です。理解が不十分だった内容について、特に学修をしてください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】飯塚美和子・桜井幸子他編：『最新　子どもの食と栄養ー食生活の基礎を築くために一』　学建書院
その他、講義中に適宜資料を配付する。
【推薦書】１．堤ちはる・土肥正子編著：『子育て・子育ちを支援する小児栄養』萌文書林
２．巷野悟郎・向井美恵・今村栄一監修：『心・栄養・食べ方を育む乳幼児の食行動と食支援』医歯薬出版株式会社

科　目　名	児童・家庭支援論		
担当教員名	福田　智雄		
ナンバリング	KDd255		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

　この科目は、保育士資格取得のための必修科目である。近年、子どもにかかわる問題は深刻さを増している。こうした中、子どもに対応するためには、子ども本人だけでなく家族や家族を含めた地域との関連性の中で問題を考える必要がある。この科目はこうした課題に対応する基礎知識を学ぶものである。

②科目の概要

　子どもや家族、家族に関係する地域の支援体制について順序良く考察していく。

③学修目標（＝到達目標）

　保育に携わるために必要な家族に関する知識、家族に関係する支援制度についての基礎知識を得ることができる。さらに、子育ての支援者になるための基礎知識も得ることができる。

内容

【内容】

1　はじめに、家庭支援論への案内
2　地域社会の変容と子育て家庭
3　家族と家庭
4　現代における夫婦・親子関係の理解と支援
5　現代における親の理解と支援
6　現代における子育て家庭の就労の理解と支援
7　児童養護の体系と家庭支援
8　子育て支援施策とサービス
9　子育て支援の原理と支援方法
10　保育所入所児童等の子育て家庭への支援
11　地域の子育て家庭への支援
12　子ども虐待への保育者の支援
13　障がいのある子どもをもつ家庭および社会への支援
14　これからの子育て家庭への支援の課題と展望
15　まとめ

評価

授業への参加度（毎回のリアクションペーパーの提出含む）40点、試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】日常新聞等に目を通すこと。

【事後学修】細かい内容が多いため、復習を行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】上田衛「保育と家庭支援」みらい

【推薦書】授業の中で紹介する。

【参考図書】授業の中で紹介する。

科　目　名	**保育内容総論**		
担当教員名	亀﨑　美沙子		
ナンバリング	KDd158		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、保育所における保育内容を総合的に理解するための科目である。

②科目の概要

本科目では、乳幼児にふさわしい生活を展開するために必要な知識を身に付ける。具体的には、保育の構造を踏まえた子ども理解と記録の方法などについて学ぶ。あわせて、遊びや教材に関する研究を行っていく。

③学修目標（＝到達目標）

本科目においては①保育の構造について理解すること、②子ども理解と記録の方法を理解すること、③子どもの発達を踏まえた遊びや教材に関する知識を身に付け、計画の立案ができるようになること、を目標とする。

内容

1	ガイダンス
2	保育における「領域」と「ねらい・内容」
3	保育内容と子ども理解①
4	保育内容と子ども理解②
5	保育内容と保育記録①
6	保育内容と保育記録②
7	保育内容と遊びの意義①
8	保育内容と遊びの意義②
9	保育内容と遊びの意義③
10	中間まとめ
11	保育における教材①
12	保育における教材②
13	保育の計画と実践①
14	保育の計画と実践②
15	まとめ

評価

①授業への取り組み10%、②提出物40%、③試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各回で指定された事前調査の課題に取り組むこと。

【事後学修】授業内容のまとめ、グループ内での話し合いの内容のまとめを行うこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省（2008）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

厚生労働省（2008）『保育所保育指針解説書』フレーベル館（その他、適宜プリントを配布）

【推薦書】

吉村真理子『保育者の「出番」を考える-今、求められる保育者の役割-』フレーベル館

【参考図書】

授業内で適宜紹介する。

科　目　名	**保育内容演習Ⅰ**		
担当教員名	布施　晴美		
ナンバリング	KDd159		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育士免許取得のための必修科目である。

②科目の概要

乳幼児期の子どもを中心に、子どもが健全に成長発達を遂げられるように、心身の健康面に視点を置き、子どもの保育を考えていく。

③学修目標（＝到達目標）

1.乳幼児の子どもの心身の成長発達が理解できる。

2.子どもの健康な生活の基盤をどう育てるのか理解できる。

3.子どもの健康保持のための支援について説明できる。

内容

1	ライフサイクルにおける乳幼児期とは
2	子どもの身体の発育発達
3	子どもの健康状態の観察（一般状態の観察）
4	子どもの健康状態の観察（各部の観察）
5	子どもと遊び
6	子どもの発達と基本的生活習慣①（食事・排泄）
7	子どもの発達と基本的生活習慣②（睡眠・清潔）
8	子どもの健康生活の基盤となるもの
9	子どもの健康支援の意義
10	子どもの健康支援（学生プレゼンテーション）
11	子どもの健康支援（学生プレゼンテーション）
12	子どもの健康支援（学生プレゼンテーション）
13	子どもの養育者の思い
14	乳幼児の安全管理
15	乳幼児の応急手当

評価

授業への参加状況（20%）、グループワークプレゼンテーション（30%）、レポート（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】TVの育児支援番組（NHKなど）を見ておきましょう。
【事後学修】学びを基に、乳幼児を観察して見ましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】河邉貴子編著『演習保育内容　健康』建帛社
【参考図書】大西文子編著『子どもの保健演習』中山書店

科　目　名	**保育内容演習Ⅱ**		
担当教員名	氏家　博子		
ナンバリング	KDd260		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

人との豊かな関わりを育む幼児教育の意義を理解し、乳幼児期における人との関わりを見つめ、広げ、深める保育者の役割について学ぶ。

②科目の概要

保育士資格、取得のための必須科目です。この授業では、幼児期の人間関係の発達の姿を理解し、必要な援助について事例を取り入れながら、保護者や子どもの関わりについて、各自の考えを積極的に発言し主体的に取り組むことを望みます。

③学修目標（＝到達目標）

・保育所保育指針の領域「人間関係」について理解する。
・乳児期から幼児期にかけての人間関係について理解する。
・遊びや集団活動を通して、規範意識や自立、自律の発達・成長を理解する。
・「人間関係」という視点から保育者の役割について理解する。

内容

1	保育内容５領域との関連性と領域「人間関係」について理解する
2	子どもを取り巻く環境と人間関係
3	家庭での子どもの人間関係
4	乳児期の人間関係
5	1，2歳児の人間関係
6	3，4，5歳児の人間関係
7	遊びの中で育つ人との関わりについて
8	発達の躓きと保育者の関わり　　受容から共感へ
9	子どもとの信頼関係（子どもと保育者の関係）
10	自己主張を支える・見守る（子どもの成長を支える）
11	気になる子どもへの援助（気になることの本質）
12	特別な支援を必要とする子どもへの援助
13	事例を基に保育カンファレンスを学ぶ
14	子どものけんかから学ぶもの（育ちに関わる人間関係）
15	まとめ

評価

出席状況30%、提出物30%、テスト40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】保育所保育指針の人間関係をよく読んでおくこと。

【事後学修】授業内容の復讐をするとともに、実習や保育現場に向けて学びを整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「新時代の保育双書　保育内容人間関係」　（株）みらい　濵名　浩

【推薦書】「事例で学ぶ保育内容　人間関係」無糖隆（監修）萌文書林

【参考図書】幼稚園教育要領、保育所保育指針、

科　目　名	**保育内容演習Ⅲ**		
担当教員名	亀﨑　美沙子		
ナンバリング	KDd261		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育士資格取得のための必修科目である。

②科目の概要

本科目では、保育所等における保育内容のうち、領域「環境」に関わる内容と方法について学んでいく。乳幼児期の子どもの発達にとって、望ましい環境とはどのようなものであるのか、また、環境を通して展開する保育とはどのようなものであるのかを、演習を通して学ぶ。

③学修目標（＝到達目標）

・保育における領域「環境」について理解する。
・乳幼児期の子どもの生活や遊びにとって、望ましい環境構成について理解する。
・子どもの発達や興味関心に応じた活動、環境構成を考えることができる。

内容

1	オリエンテーション
2	子どもの育ちと領域「環境」
3	子どもの発達と環境とのかかわり①
4	子どもの発達と環境とのかかわり②
5	子どもの発達と環境とのかかわり③
6	身近な動植物とのかかわり①
7	身近な動植物とのかかわり②
8	身近な動植物とのかかわり③
9	身近な動植物とのかかわり④
10	遊びの援助と環境構成①
11	遊びの援助と環境構成②
12	遊びの援助と環境構成③
13	遊びの援助と保育の計画①
14	遊びの援助と保育の計画②
15	まとめ

評価

①授業への参加姿勢20%、②提出物（レポート・ワークシート）60%、③コメントシート20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業内で提示された課題に取り組んで授業に参加すること。

【事後学修】各回の授業内容をノートにまとめておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示する。

【推薦書】授業内で適宜紹介する。

【参考図書】授業内で適宜紹介する。

科　目　名	**乳児保育**		
担当教員名	深田　一枝		
ナンバリング	KDd264		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

「保育の内容・方法に関する科目」に位置づけられている。

乳児保育の基礎理論と乳児保育の実際について学び、保育の専門性を高める。

②科目の概要

０歳から３歳未満児の発達の概要を理解し、乳幼児の発達に影響を及ぼす保育環境や望ましい保育のあり方を具体的に学ぶ。また、３歳未満児のすこやかな育ちを援助するために、より専門性の高い保育士としての視点やありようについても考察する。

③学修目標（＝到達目標）

１．乳児保育のこれまでの歩みと展望について説明できる。

２．乳児の発達とそれに沿った保育の実際について説明できる。

３．乳児保育の計画と評価について説明できる。

４．乳児保育に必要な連携について説明できる。

内容

1	乳児保育の理念と役割
2	乳児保育のこれまでの歩みと現状
3	６か月未満児の発育と保育の実際
4	６か月から１歳３か月未満児の発育と保育の実際
5	１歳３か月から２歳未満児の発育と保育の実際
6	２歳から３歳未満児の発育と保育の実際
7	乳児保育と環境（人的環境）
8	乳児保育と環境（物的環境）
9	乳児の病気と健康
10	乳児保育と保育計画
11	指導計画の作成
12	指導計画の評価
13	乳児保育における連携
14	乳児保育の展望と課題
15	まとめ

評価

授業への取り組み２０％　課題３０％　試験５０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書の関連するページを読む。

【事後学修】授業のポイントを整理する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉法人あすみ福祉会　茶々保育園グループ　新訂　見る・考える・創り出す
乳児保育　萌文書林

【参考図書】厚生労働省編　保育所保育指針　解説書　フレーベル館

科　目　名	**障害児保育**		
担当教員名	太田　真智子		
ナンバリング	KDd256		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

この科目は、人間福祉学科社会・保育コースで保育士取得の必修科目である。保育者として障がいがあってもなくてもかけがいのない同じ存在として捉え、理解を深めるための科目である。

②科目の概要

障がい児保育実践のために、障がい児保育の歴史や現状を知り、一人ひとり違う様々な障がいについて理解し援助の方法を学ぶ。その上で保護者への支援や関係機関との連携について理解する。

③学修目標（＝到達目標）

・障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。

・様々な障がいについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について学ぶ。

・障がいのある子どもの保育計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりの中で育ちあう保育実践について理解を深める。

・障がいのある子どもの保護者に対する支援や関係機関との連携について理解する。

・障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状について理解する。

内容

1	オリエンテーション　障がい児保育を支える理念
2	「障がい」の概念と歴史的変遷・障がい児保育の基本
3	肢体不自由・視覚・聴覚等の障がい児の理解と援助
4	知的障害児の理解と援助
5	発達障害児の理解と援助①
6	発達障害児の理解と援助②
7	障がい児保育の実際　保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価
8	障がい児保育の実際　個々の発達を促す生活や遊びの環境
9	障がい児保育の実際　子ども同士のかかわりと育ちあい　職員間の共同
10	保護者や家族に対する理解と支援
11	地域の専門機関との連携及び個別の支援計画の作成・小学校との連携
12	保健・医療における現状と課題
13	福祉・教育における現状と課題
14	支援の場の広がりとつながり
15	まとめ

評価

毎回のレポート30%学期末のレポート60%平常点10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】次回の授業に関連する教科書の部分を熟知し、分からない語句を調べる

【事後学修】授業を振り返り、要点を押さえる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】1回目の授業で紹介する

【推薦書】適宜紹介する

【参考図書】適宜紹介する

科　目　名	**社会的養護演習**		
担当教員名	福田　智雄		
ナンバリング	KDd266		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

　この科目は、保育士資格取得のための必修科目である。社会的養護が「原理」を学ぶのに対し、この科目は「実践」を学ぶ科目である。両科目ともに学ぶことにより社会的養護の考え方を身につけることができる。

②科目の概要

　この科目は社会的養護内容を学びつつ、原理である社会的養護についても定着を図る。

③学修目標（＝到達目標）

　社会的養護とあわせて学ぶことにより、家族と離れて暮らす子どもとその家族に対する理解を深めることができる。また、援助者となる一歩を踏み出すことができる。

内容

【内容】

1　社会的養護にかかわる施設での保育士の役割
2　保育士の倫理及び責務
3　保育士の専門性
4　社会的養護の理念と職能の理解
5　社会的養護に関する法制度、枠組みの理解
6　子どもの権利とは何か
7　施設での暮らしの実際と権利擁護
8　子どもの権利を守るしくみ
9　入所前後の支援、児童相談の流れ
10　インケア
11　リービングケア
12　アフターケア
13　家庭・家族への支援
14　記録及び評価
15　まとめ

評価

授業への参加度（毎回のリアクションペーパーの提出含む）40点、試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】社会的養護の復習が必要である。

【事後学修】社会的養護の各項目との比較を行う必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】橋本好市、原田旬哉「演習・保育と社会的養護内容」みらい

【推薦書】授業の中で紹介する。

【参考図書】授業の中で紹介する。

科　目　名	保育の表現技術Ⅰ（音楽表現）		
担当教員名	久保田　葉子		
ナンバリング	KDd168		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育専門科目の一つであり、1年生が選択できます。声・身体・楽器を使って子どもの運動能力や感性を磨く活動ができるよう、音楽表現の基礎的な技能を学びます。

②科目の概要

季節感のある歌、行事の歌などのレパートリーを増やし、子どもに音楽の楽しさを伝えられる大人になることを目指します。

また、音楽に合わせて身体を動かすリズム運動・リズム遊びを体験し、歌や楽器演奏、子どもへの声かけで必要な技術を学びます。

後半では総合表現の作品「子どもの四季」に挑戦し、一人ひとりが自主的に考え、表現します。

③学修目標（＝到達目標）

・心と耳を開いて、音楽と周りの人に接すること（聴くことは福祉でも大切です。）

・音に対する興味・探究心を持ち、生き生きとした保育者になるイメージをつかむこと

・リズム感を磨き、身体コントロールを意識的に行い、表現する勇気と喜びを持てるようにすること

これがこの講座の目標です。

内容

1	保育における歌とリズム
2	【歌】レパートリー拡大①／【リズム】動きと静止
3	【歌】レパートリー拡大②／【リズム】ステップ（ワルツ、スキップ、ギャロップ）
4	【歌】レパートリー拡大③／【リズム】ステップ（ツーステップ他）
5	【歌】レパートリー拡大④／【リズム】乳児のリズム
6	【歌】レパートリー拡大⑤／【リズム】３～４歳児のリズム
7	【歌】レパートリー拡大⑥／【リズム】5歳児のリズム
8	「子どもの四季」①―作品と出会う
9	「子どもの四季」②―呼吸法と指揮
10	「子どもの四季」③―互いに聴くこと
11	「子どもの四季」④―朗読の練習
12	「子どもの四季」⑤―身体表現を考える
13	「子どもの四季」⑥―保育者の表現力
14	「子どもの四季」⑦―共に学ぶ
15	まとめ

評価

授業への取り組み60%／試験（レポート）40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】子どもの歌や、文化に触れる機会をできるだけ多く持つこと。

【事後学修】復習し、次の課題を見つけること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び　こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

＊最初の授業までに楽譜を購入し、歌ったり弾いたりしてできるだけ予習をして下さい。

「子どもの四季」、リズムの楽譜は教室で配布します。

【推薦書】斎藤公子『さくら・さくらんぼのリズムと歌　ヒトの子を人間に育てる保育の実践』（群羊社）、子安美知子『ミュンヘンの小学生　娘が学んだシュタイナー学校』（中公新書）

【参考図書】斎藤公子記念館監修『DVDブック　映像で見る子どもたちは未来・第Ⅲ期　ブック「斎藤公子のリズムと歌」＋DVD「斎藤公子　最後の卒園式」』（かもがわ出版）

科　目　名	保育の表現技術Ⅱ（身体表現）		
担当教員名	菅野　清子		
ナンバリング	KDd169		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

感じたことや考えたことを、自分なりに表現することで、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにします。特に身体表現は、言葉や音楽、自然や造形などの、さまざまな表現活動から生まれる、
総合的な表現力と言えます。またそれに伴い、日常における環境が与える影響は、最も重要と言えます。

②科目の概要

保育所保育指針の示す領域「表現」の中の、身体（からだ）を使った表現力を養い、創造性を豊かにするために、保育者として必要な感性や表現技術を学びます。

③学修目標（＝到達目標）

１．一人ひとりの子どもの心に寄り添い、ごっこ遊びや表現遊びなどを通して、イメージを共有したり　　それぞれのイメージを生活や遊びの中で生かしていくようにする。
２．日々の生活の中における、音や色、形などいろいろな物に対する感性が豊かになる。
３．感じたことや考えたことを、身体で表現し、それを楽しむことや、表現活動を引き出すための言葉かけを身につける。

内容

1	オリエンテーション　表現とは・・・保育所保育指針における「表現」について
2	身体を使ったリズム遊びの体験　音の楽しさに触れる　音楽に合わせて動く
3	手遊びうたの体験　演習①
4	手遊びうたの体験　演習②
5	声による表現法について①　　擬音語　擬態語　擬声語（オノマトペ）体験
6	声による表現法について②　　動きとイメージを結びつける言葉かけ　演習
7	音と動きのコラボレーション①　　感じたことをからだで表現する　　演習
8	音と動きのコラボレーション②　　感じたことをからだで表現する　　演習
9	曲と動きのコラボレーション①　　ピアノや音源を利用し、からだで表現する
10	曲と動きのコラボレーション②　　ピアノや音源を利用し、表現する　　ダンスへ発展
11	テーマを決めて創作①　劇遊び　ミュージカルなど
12	テーマを決めて創作②　劇遊び　ミュージカルなど
13	総合的身体表現　　創作発表
14	総合的身体表現　　創作発表
15	まとめ

評価

授業への意欲20%　毎回のレポート20%　表現力60%　とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前準備】日常生活における、身近な音、色、形など、常に関心を持ち、ノートに書き留めておく

【事後学修】演習で実践したものは、今後の資料になるよう、毎回ノートにまとめておく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない　毎回プリント配布

【推薦書】必要に応じ、随時授業で紹介する

【参考図書】必要に応じ、随時授業で紹介する

科　目　名	保育の表現技術Ⅲ（造形表現）		
担当教員名	茅野　憲一		
ナンバリング	KDd270		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育所保育方針では、第１章総則３保育の原理の（３）保育の環境の中で、「・・人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、・・計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」と示している。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は、以上の人的、物的、自然や社会の事象と深く関わっている活動であり、それらを演習で学ぶことがねらいである。

②科目の概要

造形活動は、子どもの五官に触れ、「様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み創造性の芽生えを培うこと。」を、実際の保育を視野に置きながら、演習で学ぶ。

③学修目標（＝到達目標）

演習や自らの造形活動を通して、①わかる。②楽しい。③役に立つ。以上３点を押さえつつ、事象に触れ心ときめく子どもたちに共感し、寄り添える保育士の資の向上を図ることを目標とする。

内容

1	実技　プロローグ　であいはっけん　しぜんとなかよし　フロッタージュ
2	実技　ペタペタ　ペッタン　はっぱのえ　はりえ　（自然との出会い）
3	実技　キョッキン　キョキ　キョキ　ふしぎなえ　（紙との出会い）
4	実技　うつして　みつけて　ローラーであそぼう　（ものとの出会い）
5	実技　てで　さわって　かくの　きもちいい！　（ものとの出会い）
6	実技　うつして　あそぼう　かたがみはんが　（ものとの出会い）
7	実技　つちって（ねんどって）　きもちいい！　（ものとの出会い）
8	実技　あきばことの　ふしぎなであい　（ものとの出会い）
9	実技　かぜって　おもしろい！　かぜとあそぼう　（ものとの出会い）
10	実技　行事　①　はる　・こいのぼりなど　（社会の事象）
11	実技　行事　②　なつ・あき　・たなばた、ハロウィンなど　（社会の事象）
12	実技　行事　③　ふゆ　・クリスマスなど（社会の事象）
13	模擬保育演習　①　グループづくり、指導案作成、役割分担等
14	模擬保育演習　②　保育演習　2例
15	まとめ　模擬保育演習　1例

評価

授業への関心・意欲２０％、スケッチブック４０％、レポート４０％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教科書・準備するもの忘れない。教科書予め読んでおく。

【事後学修】教科書で確認しておく。少し興味の持った活動は、再度体験してみる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】[編著]辻　泰秀　「幼児造形の研究」　萌文書林

科　目　名	**保育の表現技術Ⅳ（言語表現）**		
担当教員名	氏家　博子		
ナンバリング	KDd271		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育における言語表現はさまざまな場面で求められる。音声表現、書き言葉、言語表現活動それらの関連する言語表現の能力の向上を目指す。学生自らも豊かな言語生活、さまざまな言語表現に挑戦し、学生自身の言語表現力が高められるように努力することを求める。

②科目の概要

保育で活用する、言語表現の基盤になるものを学び、学生自身の表現力を高めていけるように取り組んでいく。音声表現やさまざまな言語教材の種類を学び、演習実践を繰り返し習熟度を高める。言語教材の中から１つ選び、習熟度を高め得意な言語表現を身に着ける。

③学修目標（＝到達目標）

授業実践で言語表現力を高めるとともに仲間との取り組みを通して、相互に高めあえるようにする。
授業での言語表現を通して言語技術力を身に着け、ボランティア等の機会を活用して仲間とともに実践力を高める

内容

1	授業全体の取り組みの紹介。言語技術と表現方法を学ぶ。
2	絵本の選択と読み聞かせについて学ぶ。
3	紙芝居の選択と読み聞かせについて学ぶ。
4	絵本を作る。（内容・絵自作）
5	作った絵本の読み書かせ（音声表現の演習）
6	ペープサート・言葉遊び・人形を紹介する。
7	ペープサートを実演する
8	言葉遊び・なぞなぞ・早口言葉等を紹介、実演する。
9	パネルシアターを作る。（共同制作）
10	パネルシアターを実演する（グループ活動の実演で表現能力を高める）
11	エプロンシアターを作る。
12	エプロンシアターを作る。
13	エプロンシアターを演じる（言語技術を高める）
14	個別で基礎から応用へ、技術の向上をねらった演習を行う。
15	まとめ

評価

言語表現力40点、出席30点、製作物30点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】言語教材の種類を調べる。絵本や紙芝居、素材によるの読み聞かせ等の言語表現力を極めるなど演習実践をする。

【事後学修】授業で作成した作品等を活用して、練習を繰り返し言語表現力を極める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】表現・分野によってことなるので、選択した教材ごとに適時紹介する。

科　目　名	保育の表現技術Ⅴ（ピアノ）		
担当教員名	久保田　葉子		
ナンバリング	KDd172		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	1Aクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができます。
楽譜を読む力をつけ、ピアノの基礎的な技能を身につける授業です。

②科目の概要

ピアノを使って子どもの歌を伴奏する方法、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の表現の技術を学びます。
学生一人ひとりの音楽経験や個性に合ったアドヴァイスができるように、基本的に個人レッスンの形態で授業を行います。

③学修目標（＝到達目標）

・自力で楽譜を読めるようになり、様々なレパートリーを知ること
・学生の皆さんが歌の伴奏やリズム運動のピアノを弾きたくなるように、そして、子どもが歌いたくなるような指導ができるようになること
・身体の中のリズム感を磨き、表現する勇気と喜びが持てるようにすること
これがこの講座の目標です。

内容

・歌や音楽表現があると、保育が豊かになります。ピアノ、アコーディオン、ギターなどの楽器を使って、子どもの歌やリズム遊びを支援できたら、保育の可能性も広がることと思います。
この授業では、広い空間でも音がよく響き、音色の変化に富んでいる「ピアノ」の基本的な技能を学び、楽しく楽器を弾けることや、弾き歌いができるようになることを目指します。
授業以外の日にも、質の良い予習・復習が求められます。
・卒業後にも新しい曲に出会うためには、楽譜を自分の力で読めるようになることが必要ですが、一つの曲でも簡易伴奏のもの、コードネーム付きのものなど色々な楽譜がありますので、それらの特徴と読み方、それぞれの良さを解説します。
・歌の伴奏では、子どもの表情を見ながら演奏し、必要な合図ができるように、歌いだしの呼吸の示し方なども練習します。必要に応じて移調にも触れます。
・楽器を弾くと同時に、聴く力を育てます。
・身体の中に、リズムの躍動感と、音に対する繊細な感覚を持てるようにします。

評価

実技試験70％／通常の取り組み30％とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。
【事後学修】授業内で変えたこと、変わったことを復習し、次のステップへ進めていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ　幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）

＊最初の授業までに各自、楽譜を購入し、解説を読みながらできる限り予習してください。

教材はその他にも適宜紹介します。

【参考図書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び　こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

科　目　名	保育の表現技術Ⅴ（ピアノ）		
担当教員名	久保田　葉子		
ナンバリング	KDd172		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	1Bクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができます。

楽譜を読む力をつけ、ピアノの基礎的な技能を身につける授業です。

②科目の概要

ピアノを使って子どもの歌を伴奏する方法、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の表現の技術を学びます。

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合ったアドヴァイスができるように、基本的に個人レッスンの形態で授業を行います。

③学修目標（＝到達目標）

・自力で楽譜を読めるようになり、様々なレパートリーを知ること

・学生の皆さんが歌の伴奏やリズム運動のピアノを弾きたくなるように、そして、子どもが歌いたくなるような指導ができるようになること

・身体の中のリズム感を磨き、表現する勇気と喜びが持てるようにすること

これがこの講座の目標です。

内容

・歌や音楽表現があると、保育が豊かになります。ピアノ、アコーディオン、ギターなどの楽器を使って、子どもの歌やリズム遊びを支援できたら、保育の可能性も広がることと思います。

この授業では、広い空間でも音がよく響き、音色の変化に富んでいる「ピアノ」の基本的な技能を学び、楽しく楽器を弾けることや、弾き歌いができるようになることを目指します。

授業以外の日にも、質の良い予習・復習が求められます。

・卒業後にも新しい曲に出会うためには、楽譜を自分の力で読めるようになることが必要ですが、一つの曲でも簡易伴奏のもの、コードネーム付きのものなど色々な楽譜がありますので、それらの特徴と読み方、それぞれの良さを解説します。

・歌の伴奏では、子どもの表情を見ながら演奏し、必要な合図ができるように、歌いだしの呼吸の示し方なども練習します。必要に応じて移調にも触れます。

・楽器を弾くと同時に、聴く力を育てます。

・身体の中に、リズムの躍動感と、音に対する繊細な感覚を持てるようにします。

評価

実技試験70％／通常の取り組み30％とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。

【事後学修】授業内で変えたこと、変わったことを復習し、次のステップへ進めていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ　幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）

＊最初の授業までに各自、楽譜を購入し、解説を読みながらできる限り予習してください。

教材はその他にも適宜紹介します。

【参考図書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び　こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

科　目　名	保育の表現技術Ⅴ（ピアノ）		
担当教員名	久保田　葉子		
ナンバリング	KDd172		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Aクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができます。
楽譜を読む力をつけ、ピアノの基礎的な技能を身につける授業です。

②科目の概要

ピアノを使って子どもの歌を伴奏する方法、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の表現の技術を学びます。
学生一人ひとりの音楽経験や個性に合ったアドヴァイスができるように、基本的に個人レッスンの形態で授業を行います。

③学修目標（＝到達目標）

・自力で楽譜を読めるようになり、様々なレパートリーを知ること
・学生の皆さんが歌の伴奏やリズム運動のピアノを弾きたくなるように、そして、子どもが歌いたくなるような指導ができるようになること
・身体の中のリズム感を磨き、表現する勇気と喜びが持てるようにすること
これがこの講座の目標です。

内容

・歌や音楽表現があると、保育が豊かになります。ピアノ、アコーディオン、ギターなどの楽器を使って、子どもの歌やリズム遊びを支援できたら、保育の可能性も広がることと思います。
この授業では、広い空間でも音がよく響き、音色の変化に富んでいる「ピアノ」の基本的な技能を学び、楽しく楽器を弾けることや、弾き歌いができるようになることを目指します。
授業以外の日にも、質の良い予習・復習が求められます。
・卒業後にも新しい曲に出会うためには、楽譜を自分の力で読めるようになることが必要ですが、一つの曲でも簡易伴奏のもの、コードネーム付きのものなど色々な楽譜がありますので、それらの特徴と読み方、それぞれの良さを解説します。
・歌の伴奏では、子どもの表情を見ながら演奏し、必要な合図ができるように、歌いだしの呼吸の示し方なども練習します。必要に応じて移調にも触れます。
・楽器を弾くと同時に、聴く力を育てます。
・身体の中に、リズムの躍動感と、音に対する繊細な感覚を持てるようにします。

評価

実技試験70％／通常の取り組み30％とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。
【事後学修】授業内で変えたこと、変わったことを復習し、次のステップへ進めていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ　幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）

＊最初の授業までに各自、楽譜を購入し、解説を読みながらできる限り予習してください。

教材はその他にも適宜紹介します。

【参考図書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び　こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

科　目　名	保育の表現技術Ⅴ（ピアノ）		
担当教員名	久保田　葉子		
ナンバリング	KDd172		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	2Bクラス
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができます。
楽譜を読む力をつけ、ピアノの基礎的な技能を身につける授業です。

②科目の概要

ピアノを使って子どもの歌を伴奏する方法、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の表現の技術を学びます。
学生一人ひとりの音楽経験や個性に合ったアドヴァイスができるように、基本的に個人レッスンの形態で授業を行います。

③学修目標（＝到達目標）

・自力で楽譜を読めるようになり、様々なレパートリーを知ること
・学生の皆さんが歌の伴奏やリズム運動のピアノを弾きたくなるように、そして、子どもが歌いたくなるような指導ができるようになること
・身体の中のリズム感を磨き、表現する勇気と喜びが持てるようにすること
これがこの講座の目標です。

内容

・歌や音楽表現があると、保育が豊かになります。ピアノ、アコーディオン、ギターなどの楽器を使って、子どもの歌やリズム遊びを支援できたら、保育の可能性も広がることと思います。
この授業では、広い空間でも音がよく響き、音色の変化に富んでいる「ピアノ」の基本的な技能を学び、楽しく楽器を弾けることや、弾き歌いができるようになることを目指します。
授業以外の日にも、質の良い予習・復習が求められます。
・卒業後にも新しい曲に出会うためには、楽譜を自分の力で読めるようになることが必要ですが、一つの曲でも簡易伴奏のもの、コードネーム付きのものなど色々な楽譜がありますので、それらの特徴と読み方、それぞれの良さを解説します。
・歌の伴奏では、子どもの表情を見ながら演奏し、必要な合図ができるように、歌いだしの呼吸の示し方なども練習します。必要に応じて移調にも触れます。
・楽器を弾くと同時に、聴く力を育てます。
・身体の中に、リズムの躍動感と、音に対する繊細な感覚を持てるようにします。

評価

実技試験70％／通常の取り組み30％とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。
【事後学修】授業内で変えたこと、変わったことを復習し、次のステップへ進めていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ　幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）

＊最初の授業までに各自、楽譜を購入し、解説を読みながらできる限り予習してください。

教材はその他にも適宜紹介します。

【参考図書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び　こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

科　目　名	保育の表現技術Ⅴ（ピアノ）		
担当教員名	久保田　葉子		
ナンバリング	KDd172		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	1Cクラス
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができます。

楽譜を読む力をつけ、ピアノの基礎的な技能を身につける授業です。

②科目の概要

ピアノを使って子どもの歌を伴奏する方法、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の表現の技術を学びます。

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合ったアドヴァイスができるように、基本的に個人レッスンの形態で授業を行います。

③学修目標（＝到達目標）

・自力で楽譜を読めるようになり、様々なレパートリーを知ること

・学生の皆さんが歌の伴奏やリズム運動のピアノを弾きたくなるように、そして、子どもが歌いたくなるような指導ができるようになること

・身体の中のリズム感を磨き、表現する勇気と喜びが持てるようにすること

これがこの講座の目標です。

内容

・歌や音楽表現があると、保育が豊かになります。ピアノ、アコーディオン、ギターなどの楽器を使って、子どもの歌やリズム遊びを支援できたら、保育の可能性も広がることと思います。

この授業では、広い空間でも音がよく響き、音色の変化に富んでいる「ピアノ」の基本的な技能を学び、楽しく楽器を弾けることや、弾き歌いができるようになることを目指します。

授業以外の日にも、質の良い予習・復習が求められます。

・卒業後にも新しい曲に出会うためには、楽譜を自分の力で読めるようになることが必要ですが、一つの曲でも簡易伴奏のもの、コードネーム付きのものなど色々な楽譜がありますので、それらの特徴と読み方、それぞれの良さを解説します。

・歌の伴奏では、子どもの表情を見ながら演奏し、必要な合図ができるように、歌いだしの呼吸の示し方なども練習します。必要に応じて移調にも触れます。

・楽器を弾くと同時に、聴く力を育てます。

・身体の中に、リズムの躍動感と、音に対する繊細な感覚を持てるようにします。

評価

実技試験70％／通常の取り組み30％とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。

【事後学修】授業内で変えたこと、変わったことを復習し、次のステップへ進めていくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】東京福祉保育専門学校編『現場で役立つ　幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）

＊最初の授業までに各自、楽譜を購入し、解説を読みながらできる限り予習してください。

教材はその他にも適宜紹介します。

【参考図書】尾林裕美子他共著『保育のための歌と遊び　こどもの世界』（ドレミ楽譜出版社）

科　目　名	**発達障害の理解**		
担当教員名	白井　信光		
ナンバリング	KDd273		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

さまざまな発達障害の特性を理解するとともに、発達を促す適切な支援方法について学ぶ科目である。

②科目の概要

実際の療育場面等の写真や映像を見ながら、さまざまな発達障害についての知識を整理し、適切な支援方法について学ぶ。また相談援助において重要な役割をもつ家族支援の方法についても学ぶ。将来の実践を常に見据えながら学ぶ講座である。

③学修目標（＝到達目標）

・発達障害に関する基礎的な知識を身につけること
・定型発達（運動・認知・言語・社会性等）について理解すること
・さまざまな発達障害の特性を理解し、支援方法を考えられること

内容

1	オリエンテーション：発達障害児者とどう向き合うか
2	発達障害の診断
3	発達障害児者の家族への支援
4	知的障害の特性とその対応（１）
5	知的障害の特性とその対応（２）
6	自閉症スペクトラム障害（ASD）の特性とその対応（１）
7	自閉症スペクトラム障害（ASD）の特性とその対応（２）
8	注意欠如・多動症候群（ADHD）の特性とのその対応
9	学習障害（LD）の特性とその対応
10	定型発達の理解（１）
11	定型発達の理解（２）
12	発達障害と虐待
13	発達障害と関連する精神疾患
14	発達障害と就労
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、小テスト・レポート40%、筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する。

授業外学習

【事前準備】予習すべきポイントについては講義において説明をする。

【事後学修】講義内容について自分なりの考えをもつことが重要であるため、レポートを求める場合がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】講義において指示する。

【推薦書】講義において指示する。

【参考図書】講義において指示する。

科　目　名	レクリエーション援助論		
担当教員名	菅野　清子		
ナンバリング	KDd175		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

この科目は、人と人との出会いや人とのつながりにおいて、とても意味のある科目です。特に、社会福祉サービスにおいて、レクリエーションの果たす役割は大きく、注目されています。ここでは、必要とされるレクリエーションの意味と、人々への日常的な楽しさや心地よさを提供する援助者としての役割について学んでいきます。また、援助者が身につけるためのコミュニケーション技術としてアイスブレーキングやホスピタリティ（心地よさ・人間関係能力）を演習します。これらは、介護コースの科目であるレクリエーション活動援助法につながる、基本的な学修と言えます。また、人間発達心理学科専門科目のレクリエーション援助法と同時開講となるため、演習を取り入れながら学修していきます。

学修目標は、下記の５点です。

１．人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深める。

２．レクリエーションは、健康づくりをはじめ社会福祉や教育、地域づくり、環境に至るまでの幅広い領域で活用されていることを理解し、援助者としての役割を学修する。

３．ノートやファイルなどを有効に活用し、資料作成を行うと共に、毎時間ごとのふりかえりや記録をとることの重要性を理解する。

４．レクリエーションにおけるホスピタリティについて理解し、声かけや・態度・行動を身につける。

５．コミュニケーション技術に必要な素材やアクティビティを体験し、人前で提供出来るようになる。

内容

1	はじめまして　出会いの喜び　アイスブレーキングの体験プログラム
2	レクリエーションの意義
3	レクリエーションと社会福祉について
4	レクリエーションの支援　利用者と援助者のあり方について
5	福祉レクリエーション援助のプロセス
6	福祉レクリエーション援助のための技術と方法　アクティビティの実際
7	援助者のためのコミュニケーション技法
8	個別レクリエーション援助の立案と方法
9	集団を介したレクリエーション援助の方法
10	レクリエーション援助におけるホスピタリティの重要性
11	地域とレクリエーションの取り組み
12	プログラム計画と展開法
13	対象に合わせたプログラム作り
14	プログラムのアレンジ法
15	まとめ

評価

課題・レポート20%　演習発表20%　筆記試験40%　授業態度20%　60点以上を合格とします。合格点に満たな

かった場合は、再試験を行います。

授業外学習

【事前準備】毎回、レクリエーションアクティビティの資料を配布するので、予習しておく。

【事後学修】いつでも人前で、アクティビティが提供できるよう、練習しておくよう心がける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書]使用しない。毎回プリントを配布。

[推薦書]福祉士養成講座編集委員会編集　新版　介護福祉士養成講座⑥第3版　レクリエーション活動援助法　中央法規出版　　（財）日本レクリエーション協会監修　福祉レクリエーションシリーズ　全３巻　中央法規出版

ホスピタリティをみがく本　ホスピタリティトレーニング研究会　遊戯社

参考図書　レクリエーション支援の基礎　財団法人　日本レクリエーション協会

その他必要に応じて、随時教室で紹介する

科　目　名	相談援助実習指導Ⅰ		
担当教員名	宮城　道子、大山　博幸、片居木　英人、太田　真智子 他		
ナンバリング	KDe276		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格：社会福祉士受験資格取得課程の科目である。相談援助実習（社会福祉実習）の事前学習として、見学実習を含む基本的な学習のための科目である。

②科目の概要：相談援助実習の意義について理解する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系づけていく能力を滋養する。実習を行う実習分野についての理解をする。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。相談援助に係る知識と技術を理解、習得する。また実習における記録の内容、方法について理解する。実習事前学習は、相談援助実習指導Ⅱへと継続する。

③学修目標（＝到達目標）：社会福祉にかかる施設・機関についての理解ができる。社会福祉士の実習分野や実習施設の理解ができる。現場実習に臨む態度が修得できる。現場実習における記録の意味を理解し、初歩的な記録ができる。

内容

土曜日Ⅲ・Ⅳ限の隔週開講を原則とするが、見学実習の日程による調整が生じることがある。

1	オリエンテーション、事前レポート提出
2	社会福祉士の実習分野や実習施設の理解、施設・機関の理解、記録の理解
3	コミュニケーション技術演習
4	車イス操作演習
5	見学実習Ａオリエンテーション
6	見学実習Ａ１－新座市福祉フェスティバル
7	見学実習Ａ２－新座市福祉フェスティバル
8	見学実習Ｂオリエンテーション
9	見学実習Ｂ１－高齢者施設もしくは障害者施設
10	見学実習Ｂ２-高齢者施設もしくは障害者施設
11	見学実習ＡＢ報告会（グループ発表）
12	見学実習Ｃオリエンテーション
13	見学実習Ｃ１－児童関係機関・施設
14	見学実習Ｃ２－児童関係機関・施設
15	まとめ（事後指導）

評価

講義・実技指導における課題レポート、見学実習の記録、報告会で発表をそれぞれ評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】最初のオリエンテーション、見学実習ごとのオリエンテーションで課題を提示する

【事後学修】見学実習や報告会の記録をまとめる

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科で作成した実習マニュアルを配布する

【推薦書】特に指定しない。見学実習先によって、各種の資料を配布する

科　目　名	**相談援助実習指導Ⅱ**		
担当教員名	太田　真智子、宮城　道子、大山　博幸、佐藤　陽 他		
ナンバリング	KDe376		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①社会福祉士受験資格習得課程の科目である。社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。この科目は相談援助演習Ⅲと連動して進める。

②相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際的に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

③実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事前学習の成果として実習課題を作成することができる。

内容

1	オリエンテーション　社会福祉実習への心得
2	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解1
3	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解2
4	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
5	「実習記録ノート」への具体的記述方法と管理の仕方
6	実習課題（目標）と実習計画作成の方法
7	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成１
8	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成２
9	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成３
10	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成４
11	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成５
12	実習報告会への参加
13	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成６
14	グループスーパービジョン：実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成７
15	まとめ、実習に向けての確認

評価

事前学習の成果である事前報告書（40%）や実習後の事後報告書の提出及び実習報告会での報告（60%）を求める。それらを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】相談援助過程について確認すること。自分の関心のある福祉領域の主な施設や機関について確認すること。

【事後学修】作成した実習課題（目標）や実習計画について再度見直すこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

科　目　名	介護総合演習Ⅰ		
担当教員名	野島　靖子、宮内　寿彦、山口　由美、二瓶　さやか		
ナンバリング	KDe178		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「介護総合演習」に関する科目の１つである。主として介護実習Ⅰに対応し、実習と組み合わせての学習である。

②科目の概要

介護実習の教育効果を上げるため、実習記録の書き方や実習のマナー、実習計画の立案方法など、実習に必要な知識や技術について学ぶ。実習後には実習報告会を開催する。個別の学習到達状況に応じた総合的な学習である。

③学修目標

１．介護実習Ⅰにおける実習の意義について理解できる。

２．実習前・中・後に及ぶ介護実習のプロセスを理解できる。

３．介護実習Ⅰ－１から介護実習Ⅱ－２まで介護実習全体の学びを理解できる。

内容

1	介護実習とは何か
2	介護実習Ⅰ－１の実習先の理解
3	介護実習の実習計画の立案方法
4	介護実習におけるマナー
5	介護実習における記録の書き方
6	実習Ⅰ－１グループ指導
7	実習Ⅰ－１振り返り
8	3年生実習報告会参加
9	3年生実習報告会参加
10	介護実習Ⅰ－２とは何か
11	介護実習Ⅰ－２の実習先の理解
12	介護実習Ⅰ－２　実習目標・実習計画立案
13	介護実習Ⅰ－２に向けたグループ指導
14	介護実習Ⅰ－２実習前報告会
15	介護実習Ⅰ－２報告会

評価

課題レポート、実習に関する記録物、教員との面接により、総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】テキスト及び実習の手引きをよく読んでおく。事前に指示された課題について準備する。

【事後学修】毎回の授業で指示する。各自の実習目標・実習計画を確認する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】学内作成「実習の手引き」及びオリジナル資料配布

科　目　名	介護総合演習Ⅱ		
担当教員名	二瓶　さやか、野島　靖子、宮内　寿彦、山口　由美		
ナンバリング	KDe278		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

本科目は学科専門科目における「社会福祉実践科目」の選択科目であるが、介護福祉士コースの学生は、本科目を履修しなければならない。また，介護総合演習Ⅰ及び介護実習Ⅰを単位取得した者，並びに介護実習Ⅱを履修中の者のみが履修できる。

②科目の概要

介護実習Ⅱ‐１‐①の事前及び事後指導、介護実習Ⅱ－１－②の事前及び事後指導を行う

③学修目標（＝到達目標)

1　実習施設の概要を理解できる。

2　実習計画を作成し、学習課題を明確にできる

3　介護過程におけるアセスメントを理解し、実践できる

内容

1	介護実習Ⅱの目的・位置づけについて
2	介護実習Ⅱ－１－①のオリエンテーション
3	実習計画の立案の仕方について
4	個人票・実習計画書の作成
5	介護実習Ⅱ－1－①計画書発表
6	介護実習Ⅱ－1－②のオリエンテーション
7	介護実習報告会参加
8	介護実習報告会参加
9	介護技術確認
10	介護技術確認
11	介護実習Ⅱ－１－①報告会
12	個人票・実習計画書の作成
13	介護実習Ⅱ－１－②実習計画書発表
14	帰校日（介護過程の展開等の確認）
15	実習事後指導

評価

授業への参加状況30%、個人票・実習計画書の作成レポート30%、実習に向かう準備状況20%、実習の振り返り状況

20%により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】「介護実習の手引」を読む。事前に提示された課題に取り組む

【事後学修】授業時に指示する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学作成）を使用する。

科　目　名	**介護実習Ⅰ**		
担当教員名	野島　靖子、宮内　寿彦、山口　由美、二瓶　さやか		
ナンバリング	KDe179		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護福祉士養成課程における、「介護実習」に関する科目の１つである。

②科目の概要

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する学習とする。

③学修目標

実習Ⅰ－１

・高齢者介護等に関わる在宅生活支援事業の概況を理解する。

・利用者と積極的にコミュニケーションを図ることができる。

実習Ⅰ－２

・特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者施設等の施設の概況と利用者の生活について理解する。

・入所施設における基礎的な介護技術を学ぶ。

内容

〇実習施設・事業Ⅰに区分される事業所での学外施設実習である

実習Ⅰ－①　　４日間（３２時間）　　１年生後期

認知症対応型共同生活介護　小規模多機能型居宅介護　デイサービスセンター等

実習Ⅰ－②　　８日間　（６４時間）　１年生後期

特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者支援施設等の入所施設

評価

実習状況、記録物、教員との面接、実習施設による評価、自己評価などにより、総合的に評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学生各自が作成した個人目標・実習計画に沿った事前学習を行う。

【事後学修】実習反省会、実習記録等により実習全般を振り返り、実習課題を見出し、次回実習へとつなげる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】学内作成「実習の手引き」及びオリジナル資料配布

科　目　名	介護実習Ⅱ-1		
担当教員名	山口　由美、野島　靖子、宮内　寿彦、二瓶　さやか		
ナンバリング	KDe379		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	必修＊,選択
授 業 形 態		単　位　数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

１．本科目は学科専門科目における「社会福祉実践科目」の選択科目であるが、介護福祉士コースの学生は、本科目を履修しなければならない。また，介護総合演習Ⅰ及び介護実習Ⅰを単位取得した者，並びに介護総合演習Ⅱを履修中の者のみが履修できる。

２．介護実習Ⅱ－１－①は、厚生労働省告示により定められた「実習施設・事業等（Ⅰ）」に該当する実習であり、介護実習Ⅱ－１－②は、厚生労働省告示により定められた「実習施設・事業等（Ⅱ）」に該当する実習である。

②科目の概要

介護実習Ⅱ‐１‐① 居宅で暮らす利用者の生活状況および訪問介護の実際を知る。利用者及び家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践。

介護実習Ⅱ－１－② 施設に入所している利用者の介護過程における生活課題抽出までを行う。

③学習目標

１　コミュニケーション能力の向上につとめ、利用者及び職員と人間関係を築くことができる。

２　様々な介護現場における多職種協働について理解する。

３　利用者の個別の状況に応じた日常生活支援技術を実施できる。

４　一人の受け持ち利用者に関するアセスメントをし、生活課題の抽出ができる。

内容

１　介護実習Ⅱ－1－①

訪問介護事業所等での学外実習である。

12月に訪問介護事業所等で、3日間（24時間）の介護実習を行う。

２　介護実習Ⅱ－1－②

入所施設での学外実習である。

2～3月に介護老人福祉施設、介護老人保健施設等の入所施設で、20日間（160時間）の介護実習を行う。

３　本学習目標、実習計画書、実習先の状況を踏まえ、各自で毎日の実習目標を設定し、介護実習を行う。

４　介護実習Ⅱ－１－②の実習についてはおおよそ下記のスケジュールを目安とする。ただし、実習施設の実習指導者や実習巡回担当教員に相談しながら進める。

・1週目の後半にアセスメント対象者を決定する（利用者が決定している場合は、利用者と関わりながら情報収集を行う）。

・2週目は、利用者と関わりながら情報収集を行う。

・3週目は、情報の分析・解釈・統合、判断を行い、3週目の終わりには大まかでもよいので、生活課題を抽出できる

・4週目は、介護計画の実施及び評価を行う〈反省会を学生主体で行う〉。

５　実習時間、並びに実習記録の提出時間や提出場所を厳守する。

評価

実習中の学習姿勢、実習記録の内容、本学習目標の到達度，個人の実習計画の到達度等について，実習施設の評価及び担当教員の評価を踏まえて評価し，総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】学生各自が作成した個人目標・実習計画に沿った学習を行う

【事後学修】実習反省会、実習記録等により、実習をふりかえり、次回の実習課題を考察する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学内作成の「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学）を使用する。

科　目　名	**保育実習指導Ⅰ**		
担当教員名	久保田　葉子、福田　智雄、亀﨑　美沙子、角田　真二		
ナンバリング	KDe282		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	通年	必修・選択の別	選択,必修＊
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習ＩA」ならびに「保育実習ＩB」の実習事前・事後指導を目的とするものである。保育実習に参加を希望する場合には、必ず履修しなければならない。

②科目の概要

実習の目的・内容ならびに実習先施設の機能や役割、職員の職務内容を理解し実習課題を明確化するとともに、実習に必要な知識・態度・技術を身に付ける。

あわせて、実習のねらいの達成に向けて、グループワークによるディスカッションや課題の共有、面談等を行う。

③学修目標（＝到達目標）

①実習の事前指導を通して、実習に必要な心構えや知識、技術を身に付ける。②実習先施設の社会的役割や機能、職員の職務内容について理解し、自己課題を明確化する。③実習に対する振り返りを通して、自己の実践力や保育士としての課題を理解し、今後の学習目標を設定する。

内容

第１回：オリエンテーション、第２回：保育所実習の意義と目標
第３回：施設実習とは何か・意義と目標、第４回：保育所保育指針の理解
第５回：実習生に求められるもの、第６回：保育所における保育士の役割
第７回：施設の種類と概要①　乳児院／母子生活支援施設での援助・実践の理解、第８回：保育実習の心がまえと実習目標
第９回：施設の種類と概要②児童養護施設での援助・実践の理解、第10回：子ども理解と記録作成①
第11回：施設の種類と概要③障害者支援施設での援助・実践の理解、第12回：子ども理解と記録作成②
第13回：実習に向けた心構え（不安への対応）、第14回：子ども理解と記録作成③
第15回：実習課題の整理、第16回：保育実習の書類作成等
第17回：施設実習の書類作成等、第18回：子どもへの援助と保育技術①
第19回：記録作成①施設実習での記録作成方法、第20回：子どもへの援助と保育技術②
第21回：記録作成①施設実習での記録作成方法、第22回：保育所における保護者支援と保育士の役割
第23回：実習オリエンテーションの準備、第24回：実習オリエンテーション準備
第25回：実習課題の明確化と設定①（事前面談）、第26回：実習課題の明確化と設定②（事前面談）
第27回：実習課題の明確化と設定③（事前面談）、第28回：実習課題の明確化と設定④（事前面談）
第29回：施設職員を迎えて、第30回：実習前の最終確認

評価

授業への参加姿勢50%、提出課題等50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業内容にかかわるテキスト内容を読んで授業に臨むこと。

【事後学修】ディスカッション等の演習内容をノートにまとめておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】①厚生労働省（2008）『保育所保育指針解説書』フレーベル館

②長島和代編（2014）『これだけは知っておきたい　わかる・話せる・使える　保育のマナーと言葉』わかば社

③守巧他（2014）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

【推薦書】【参考図書】

授業内で適宜紹介する。

科　目　名	**社会調査の応用**		
担当教員名	角田　真二		
ナンバリング	KDf384		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

選択科目であるが、内容的に「社会調査の基礎」を履修したうえで、本科目を履修することが望ましい。

②科目の概要

調査テーマを設定し社会調査の企画・実施・結果の分析・報告等のシュミレーションを行う。授業中の発表と討論を重視する。

③学修目標（＝到達目標）

学修目標は以下の通り。1）社会調査の知識・技法にもとづいて、現代社会を深く理解することをねらいとする。2）福祉の間接援助技術としての社会福祉調査の特徴を理解する。3）社会調査の成果と限界を理解する。

内容

1	社会調査の意義と役割
2	調査テーマの目的と既存データの活用
3	調査テーマの設定
4	調査テーマの発表と討論
5	調査企画書の作成とプレゼンテーション
6	調査票の作成と実施
7	調査票の作成と実施
8	調査票の作成と実施
9	調査結果の集計・分析手順
10	調査結果の集計・とりまとめ方法
11	調査結果のプレゼンテーションと討論
12	調査結果のプレゼンテーションと討論
13	調査結果のプレゼンテーションと討論
14	レポートの作成
15	まとめ

評価

提出してもらうレポート（１５点）を、１５０点満点（１５X１０点満点）で計算し、９０点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】「社会調査の基礎」で学んだことを復習し、とくに社会調査の技法について理解を深めておく.毎回，60分程度.
【事後学修】講義の進展にともなって課題を進めなければならないので、毎週の復習が大切である。毎回，60分程度.

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】社会福祉士の試験問題集

科　目　名	**調査と統計**		
担当教員名	宮城　道子		
ナンバリング	KDf185		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

学科専門科目のうち選択科目。

②科目の概要

現代社会において活用されている統計や調査のリテラシーを学ぶ。実際の統計データを用いた加工や分析あるいは調査の企画・実施の手続を学ぶ。「社会調査の基礎」の履修前に、本科目を履修していることが望ましい。

③学修目標（＝到達目標）

・統計や調査の結果を読み、活用できる力を身につける
・仮説をたて、適切な調査実施を計画する力を身につける
・簡単な調査を実施し、その手続きや留意点を理解する
・統計や調査結果の発表や活用における倫理を理解する

内容

前半は講義中心、後半は最終課題に向けた演習的内容を盛り込む予定だが、履修人数により各週の予定を調整する場合がある。

1	現代社会における統計と調査
2	代表的な統計調査①－国勢調査・人口動態調査
3	代表的な統計調査②－労働力調査
4	白書における統計調査データ
5	新聞における統計調査データ
6	統計調査の歴史
7	女性情報と統計調査
8	調査の倫理
9	既存データの加工・二次的利用
10	量的調査の概要－データ収集と集計
11	事例調査の概要－観察とインタビュー
12	ドキュメント調査の概要
13	データを用いたプレゼンテーション
14	課題発表－統計調査によるデータを用いたテーマ発表
15	まとめ

評価

授業中に提出する課題（４割）、発表（１割）、最終課題（５割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業を理解するための資料やデータ収集の課題にとりくむこと。

【事後学修】授業中に紹介する文献のうち、自分の関心につながるものをよむこと。毎回の講義で理解したことを最終課題につなげるよう意識して復習すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし

【推薦書】講義中に紹介する

【参考図書】講義中に紹介する

科　目　名	**精神保健福祉論**		
担当教員名	新井　幸恵		
ナンバリング	KDf187		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格：精神保健分野での、当事者の暮らしや支援の理解に欠かせない社会福祉の学びとして位置付ける。人間が社会的な存在である以上、こどもから高齢者に至るすべてのライフステージで心身の健康が損なわれる可能性がある。社会的な制度の立ち遅れや社会的偏見の歴史から、その原因を探り、支援に係る専門職の役割を学ぶ。中でも第二次世界大戦後、歴史的に形成されてきた当事者こそが「その人」の専門家であるというストレングスモデルの視点を軸に据える。

②科目の概要：精神保健福祉の意義、精神障がいの基礎知識、精神保健福祉の歴史的社会的背景、精神保健福祉制度の概要について理解する。ついで、生活の場及びライフサイクルにおける精神保健福祉のストレングスモデルを活かした実践的役割や多様な支援手法を学ぶ。地域生活支援センターゲスト講師による地域での固有の実践を共有、当事者講師によるその想いや願いに傾聴する場を設ける。関心ある領域に関する最終レポートを作成・発表し全体で共有する

③学修の目標：１　精神保健福祉の意義・制度及び歴史的形成過程が理解できる
２　精神障害がい者の疾病とその回復過程が理解できる
３　リカバリー自身の住む自治体の精神保健福祉政策を理解・評価することができる
４　日本の精神保健福祉政策を理解・評価・批判することができる

内容

1	オリエンテーション　映像から考える精神障がい者の人権（１）ホスピタリズムを考える
2	映像から考える精神障がい者の人権（２）パターナリズムと私たち
3	映像から考える精神障がい者の人権（３）脱施設化と精神保健福祉の展開
4	精神疾患と精神保健福祉（１）統合失調症　診断と治療、回復過程
5	精神疾患と精神保健福祉（２）気分障害と自殺予防　地域連携
6	精神保健福祉の発達史
7	地域生活支援の実際　（１）リカバリー回復モデルと退院促進
8	中間まとめ
9	地域生活支援の実際　（２）ＡＣＴ　重い障がい者を地域で支える
10	地域生活支援の実際　（３）当事者と専門職からのメッセージ（新座地域生活支援センター）
11	精神障がい者の権利侵害を考える～ナチスの障がい者ホロコースト（T４作戦）に学ぶ
12	課題発表と提出について
13	発表（１）
14	発表（２）
15	発表（３）課題提出　振り返り

評価

授業参加態度３０％、中間評価　２０％　最終回評価５０％　６０％以上合格　合格点に満たない場合には再試験を行いま

す

授業外学習

「事前予習]　当該章を読み自己課題を作成する

「事後課題」　授業を受け、振り返りシート、または設定された課題をもとにレポートを作成する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野末浩之「こころ・からだ・くらし」精神障害者の理解と地域支援　　萌文社

【推薦書】大熊一夫「精神病院を捨てたイタリア、捨てない日本」岩波書店

藤本豊編「よくわかる精神保健福祉」ミネルバ書房

野中猛「精神障害リハビリテーション」中央法規

ＤＶＤ「カッコー好の巣の上で」

参考図書は随時授業で紹介します

科　目　名	ボランティア・コーディネーション		
担当教員名	佐藤　陽		
ナンバリング	KDf188		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

社会福祉展開科目として福祉に関する「ボランティア」を中心にボランティア・コーディネーションの基本をとらえる。

②科目の概要

ボランティアの概観から歴史と性格を理解し、推進するための技術としてボランティア・コーディネーション力を、具体的実践事例（ゲストスピーカー含む）を交えながら理解することを内容とする。

③学修目標(=到達目標)

1.ボランティアについて理解する。

2.ボランティア・コーディネーションについて理解する。

3.ボランティア・コーディネーターの基本姿勢を身につける。

内容

1	ボランティアについて-概観-
2	ボランティアの必要性と意味
3	実際の活動から学ぶ①ボランティアグループによる活動
4	実際の活動から学ぶ②社会福祉施設等でのボランティア活動
5	ボランティア活動の内容
6	日本のボランティア活動の歴史
7	ボランティア活動の性格
8	ボランティアの特長
9	ボランティアのとらえ方
10	利己主義と利他主義、ボランティア活動の課題と弱点
11	ボランティアとNPO、ボランティアセンター、ボランティアコーディネーター
12	実際の活動から学ぶ③NPO法人ボランティア活動について
13	実際の活動から学ぶ④ボランティアコーディネーターについて
14	これからできるボランティア体験について
15	まとめ

評価

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー10%、学修目標に関する中間レポート40%、総括レポート40%

とし、総合評価６０点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】ボランティアについて自分の認識を整理出来るように、書籍、テレビ、新聞、雑誌、実際のボランティア活動等の中から選んで事前理解を心がける。

【事後学修】毎回の授業内容を復習して振り返り、示された図書等を読み、関心を持った活動等について更に調べ、学びを発展的に深める努力を心がける。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。
その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。
【推薦書】ＮＰＯ法人日本ボランティアコーディネーター協会編「ボランティアコーディネーション力」中央法規、柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論」(株)みらい

科　目　名	介護基礎		
担当教員名	二瓶　さやか		
ナンバリング	KDf089		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

介護福祉士養成課程以外の学生が、選択科目として、介護の知識と基本的な介護技術を学ぶ科目である。介護に関心がある学生や、高齢領域や障がい領域への実習を希望している学生に履修してほしい科目である。

②科目の概要

高齢や障がいにより支援が必要な人が、主体的にいきいきと暮らしていくために、支援者が身に着けておくべき知識と技術を学ぶ。年齢特性や障がい特性に応じた生活支援技術を学ぶ。

③学修目標

１．利用者主体の介護を理解できる。

２．利用者の尊厳を支える生活支援プロセスを習得する。

３．環境の整備、食の支援、身じたくの支援に関する技法を習得する。

内容

1	ガイダンス　介護福祉の基礎
2	介護実習室とは
3	ベッドメイキングの実際
4	高齢者の理解
5	高齢者疑似体験
6	障がいがある人の社会参加の支援
7	車いす体験と介助方法
8	食の支援①支援が必要な人の食事とは
9	食の支援②嚥下食と食事介助の方法
10	身じたくの支援とは
11	衣服の選択と着脱の方法
12	視覚に障がいがある人への支援
13	移乗介助の理解
14	排せつ介助の理解
15	まとめ

評価

授業への取り組み２０点、レポート２０点、筆記試験６０点とし、総合評価６０点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】予定表に基づきテキストをよく読んでおく。演習内容により服装・持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。

【事後学修】配布された資料をノートにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】柴田範子編　介護福祉士養成テキストブック「生活支援技術Ⅰ」ミネルヴァ書房

【推薦書】井上千鶴子編　介護福祉士養成テキストブック「介護の基本」ミネルヴァ書房

科　目　名	ユニバーサルデザイン論		
担当教員名	角田　真二		
ナンバリング	KDf190		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

科目の性格　日常の道具の使いやすさを対象にする福祉機器論よりも、対象を情報機器に分野を絞った科目になる。また、心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要　情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。本科目では、特にマニュアルを取り上げ、有効なマニュアルの条件について考察したい。

学修目標　わかりやすく、読んでみたくなる、具体的なマニュアルを作成したい。実際に作成する過程で、わかりやすい表現をすることが難しいことを理解してほしい。弱者の立場に立ってものを見る視点を養いたい。

内容

1	オリエンテーション
2	人間の心理過程と情報機器の情報処理（１）情報の部分性
3	人間の心理過程と情報機器の情報処理（２）　言語
4	人間の心理過程と情報機器の情報処理（３）　記憶
5	人間の心理過程と情報機器の情報処理（４）情報検索
6	人間の心理過程と情報機器の情報処理（５）　視覚
7	人間の心理過程と情報機器の情報処理（６）　聴覚
8	人間の心理過程と情報機器の情報処理（７）　触覚
9	情報機器を使うことの難しさ（１）　ヒューマンエラー
10	情報機器を使うことの難しさ（２）ユーザが自分の責任にしがちである現状
11	情報機器を使うことの難しさ　（３）　メニュー、アイコン、専門用語
12	情報機器を使うことの難しさ　（４）　学習の停滞
13	情報機器を使うことの難しさ　（５）　プロダクションパラドックス
14	マウスやキーボードの使い方を説明する、実際のマニュアル作成をする
15	まとめ

評価

毎回提出してもらうレポート、１５０点満点（１５回X１０点満点）で、９０点以上を合格とする。

授業外学習

事前準備　日常生活における道具の観察。1時間

事後学修　自分の作成したレポート、作品と他者のものとの比較を行う。１時間。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリントを配布する

推薦書かつ参考図書　野島久雄（訳）　誰のためのデザイン　新曜社

科　目　名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施　晴美		
ナンバリング	KDf281		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格：

人間福祉学科専門科目の社会福祉展開科目に位置づけられている。また、社会福祉主事任用資格取得に関連した科目である。他学科開放科目としている。

②科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を発揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復を図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

③学修目標：

１．リハビリテーションの理念が理解できる。
２．障がいの受容プロセスが理解できる。
３．ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とＱＯＬが理解できる。
４．心理的な側面でのリハビリテーションの役割が理解できる。
５．学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

内容

1	リハビリテーションとは
2	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン
3	障がいの概念とリハビリテーション
4	障がいの受容過程
5	ライフサイクルとＱＯＬ
6	死別とグリーフワーク
7	子どものリハビリテーション①子どもの障がいの基礎知識
8	子どものリハビリテーション②脳性麻痺
9	子どものリハビリテーション③発達障がい（広汎性発達障がい）
10	子どものリハビリテーション③発達障がい（学習障害と注意欠陥/多動性障害）
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション①脳血管障害
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション②認知症
13	成人期・老年期の人のリハビリテーション③寝たきりと廃用症候群
14	地域におけるリハビリテーション
15	リハビリテーションのまとめ

評価

授業への参加状況（10%）、レポート（20%）、筆記試験（70%）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各単元について、教科書を事前に読んでおきましょう。また、障がい者支援に関連したTV番組を見るようにしてください。

【事後学修】各単元終了後に、学生という立場でできることは何であるのか、考えまとめておきましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編　『学びやすいリハビリテーション論』第２版　金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著　『リハビリテーション概論』　建帛社　494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監　『リハビリテーションと看護―その人らしく生きるには―』　中央法規　492.9/R

科　目　名	**手話**		
担当教員名	谷　千春		
ナンバリング	KDf192		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

②科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指点字などの基礎を理解します。

③学修目標（＝到達目標）

NPO手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容

1	あいさつの表現
2	家族に関する表現
3	日時に関する表現
4	指文字（ア～サ行）
5	名前に関する表現
6	指文字（タ～ハ行）
7	趣味に関する表現
8	指文字（マ～ワ行）
9	地名に関する表現
10	自己紹介
11	表現力・実技試験
12	動物に関する表現
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験（40%)、通常の授業態度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと
【事後学修】授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j
【参考図書】ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

科　目　名	社会福祉の歴史		
担当教員名	太田　真智子		
ナンバリング	KDf093		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係			

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①人間福祉学科専門科目であり、社会福祉基礎科目である。

②

1. 社会福祉をめぐる日本及び欧米の歴史について学び、さらに社会福祉の理念と意義について理解する。

2.社会福祉に影響を及ぼした人物・思想・実践を紹介し、現在に継承されている思想・実践について学ぶ。

3.適宜、タイムリーな話題、事例を引用して身近な内容とする。

③

1. 社会福祉をめぐる動向について理解し、歴史上重要な事項の概略を述べることができる。

2. 社会福祉に影響を及ぼした人物の内、興味ある人物について説明することができる。

内容

1	オリエンテーション	社会福祉の歴史を学ぶ意義について
2	現代社会と社会福祉	社会福祉の概念、範囲について
3	社会福祉の歴史：日本１	日本における前近代の状況について
4	社会福祉の歴史：日本２	日本における近代の状況について
5	社会福祉の歴史：日本３	人物・思想・実践（前近代・近代）
6	社会福祉の歴史：日本４	日本における近代から戦後にかけての状況について
7	社会福祉の歴史：日本５	日本における戦後から現在に至る状況について
8	社会福祉の歴史：日本６	人物・思想・実践（近代から戦後）
9	社会福祉の歴史：西洋１	西洋における前近代から近代の状況について
10	社会福祉の歴史：西洋２	人物・思想・実践（前近代・近代）
11	社会福祉の歴史：西洋３	西洋における前近代から近代の状況について
12	社会福祉の歴史：日本と西洋　人物・思想・実践のまとめ　グループ討議	
13	興味ある歴史上の人物の紹介・グループ発表	
14	授業全体の振り返り	
15	まとめ	

評価

筆記試験（60点）レポート（20点）発表（10点）授業態度（10点）とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合にはレポート提出を行う。

授業外学習

【事前予習】事前にテキストに目を通しておくこと

【事後学修】ノートを整理し授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】　よくわかる社会福祉の歴史　ミネルヴァ書房

【推薦書】　【参考図書】随時紹介する

科　目　名	**ケア論**		
担当教員名	大山　博幸		
ナンバリング	KDf195		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	1	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単　位　数	2
資 格 関 係	保育士資格		

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①ケアリングの理論とそれに関連する思想の理解を深める。対人援助職の基本姿勢、態度の形成を目的とする意味では本授業は社会福祉基礎科目として位置づけられる、本科目は社会福祉の②ケア及びケアリングの概念について理解を進め、対人援助職におけるケア及びケアリングの思想の意義を探求していくことをねらいとする。またケアリングと癒し（ヒーリング）の関連についても考察する。③ケアリング概念について説明記述でき、ケアリングそれに関連するテーマや思想的背景について独自の意見を述べることができる。

内容

1	オリエンテーション
2	各定義・概念の整理：ケアの語源、関連する概念
3	根源的なケア経験、ケアの動機（ロロ・メイ、鷲田を例として）
4	メイヤロフのケアリング論（概要）
5	メイヤロフのケアリング論（展開１）
6	ケアと共感：ロジャーズのカウンセリング理論
7	ケアと共依存：依存症、アダルトチルドレン、人格障害
8	ケアと共依存：恋愛依存
9	事例から学ぶケア１：看護
10	ケアと死：広井のターミナルケア論から
11	事例から学ぶケア２：ターミナルケア（キューブラロス、ミンデル）
12	ケアリングとスピリチュアリティ：エドワード・カンダの理論から
13	ケアリングとヒーリング：ケイローンの神話から
14	ケアする人の成長
15	まとめ

評価

授業中のミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】広辞苑や英和辞典でケア（care）の辞書的意味やその語源を調べておく。

【事後学修】メイヤロフのケアの定義について確認し、授業で関心を持ったケアに関連する概念について調べまとめてみること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】日本ホリスティック教育協会 吉田敦彦・守屋治代・平野慶次編『ホリスティック・ケア―新たなつながりの中の看護・福祉・教育』せせらぎ書房

【推薦書】

ロロ・メイ『愛と意志』誠信書房

メイヤロフ『ケアの本質』ゆみる出版

鷲田清一『聴くことの力』阪急コミュニケーションズ

広井良典『ケア学』医学書院

科　目　名	人間福祉基礎演習		
担当教員名	宮城　道子、大山　博幸、山口　由美、福田　智雄		
ナンバリング	KDg197		
学　　科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学　　年	2	ク　ラ　ス	
開　講　期	前期	必修・選択の別	必修＊
授 業 形 態		単　位　数	1
資 格 関 係			

ねらい（①科目の性格　②科目の概要　③学修目標）

①科目の性格: 2年次必修科目、コース・資格取得課程を超えて、福祉の学びを共有する。ＣＯＣ事業に参加し、新座市への理解を深める。

②科目の概要：ポートフォリオの活用による担任によるメンタリング。ＣＯＣ事業に参加し、新座市内フィールドワーク（グループ活動）、フィールドワーク報告会。ゼミ説明会運営。

③学修目標（＝到達目標）：グループ活動を企画し、準備・実行・報告までを主体的に実施できる。フィールドで学んだ事を福祉の実践的な学びにつなげることができる。３・４年次の学びのテーマを検討し、主体的なゼミ選択ができる。

内容

1	オリエンテーション
2	ポートフォリオ作成とメンタリング（クラス担任別）
3	ポートフォリオ作成とメンタリング（クラス担任別）
4	ポートフォリオ作成とメンタリング（クラス担任別）
5	新座市フィールドワークの基礎的知識（ゲスト講師）
6	新座市フィールドワークの企画・準備①－グループ分け、テーマ設定
7	新座市フィールドワークの企画・準備②－地図・行動ルート・スケジュール作成
8	新座市フィールドワークの企画・準備③－役割分担・白づくりなど
9	新座市フィールドワークの実施（グループ別）
10	新座市フィールドワークの実施（グループ別）
11	新座市フィールドワークの実施（グループ別）
12	新座市フィールドワークの実施（グループ別）
13	新座市フィールドワーク報告会
14	ゼミ学習に向けて
15	まとめ

評価

フィールドワークレポート、報告会レポート等の提出物（50%）および最終レポート（50%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】最初のオリエンテーションで課題を提示する

【事後学修】ＣＯＣ事業に参加し、新座市において発展的な学びを実現する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しないが、ＣＯＣ関連資料を授業中に配布する。